

ひとりごとダイアリー・アーカイブス  
方言・米沢弁・米沢でしゃべらっちえきた言葉集  
《あ〜こ》  
おきたまのラジオマン編

〈はじめに〉

本米沢弁リストは、おきたまラジオNPOセンターのホームページに掲載されている“ひとりごとダイアリー”（執筆：おきたまのラジオマン）で取り上げた米沢弁や米沢でしゃべらっちえきた言葉を一覧にしたものです。（この連載は、2008年4月から始まりました）

米沢弁と言っても地域によって違います。そこで、“ひとりごとダイアリー”では、おきたまのラジオマンが聴いたり、しゃべってきたもの、あるいは知っている言葉のみを取り上げております。

なお、あとで加筆したものもあります。

●あいしょう・・・・同じ米沢でも、人によって意味が微妙に違うようです。私などは、こんな感じで言います。例えば「あいづ、なんだかんだ言うもんだがら、あいしょうってきた」。これは「あの人、なんだかんだ言いますので、適当に対応した」という意味です。この「適当に対応した」とは「いい加減に対応した」という場合もありますが、「軽く聞き流した」という意味合いが強い場合が多いです。つまり「あいしょう」は「適当に対応する」「軽く聞き流す」という意味です。

あの子の言うことにイチイチ対応していたら、とても体は持ちません。そんな時は「あいしょう」ことになります。

なお、「あいしょう」を「干渉する」「からかう」と説明しているものもありますが、私はこの意味で使ったことはありません。だから、言葉とは難しいのです。

●あいべ・あえべ・・・・「行こう」「行くよ」という意味です。代表的な米沢弁のひとつです。中心市街地の一角に設けられた市民が集える場にも“あいべ”と名付けられています。

ただ、私には「あいべ」という表現は、上品な言い方に聞こえます。私などは子どもの頃から「あえべ」と言ってきました。

「あいべ」（あえべ）は、代表的な米沢弁のひとつですが、米沢だけではなく、山形県や福島県（会津地方など）でも使われた言葉です。

「あいべ」（あえべ）には、2つの意味があります。

例題です。「さげのみさ、あえべ」。「酒飲みに行こう」という意味です。これは酒飲みに『誘う』ための「あえべ」です。

もうひとつの例題です。「みせさ、あえべ」。「店に行くよ（行くぞ）」という意味です。買い物をすることになり、遊んでいた子どもに、おかあさんが言ったのが「みせさ、あえべ」です。この「あいべ（あえべ）」は、子どもに『指示・命令』するための言葉です。

このように「あいべ（あえべ）」には、少なくとも『誘う』意味と『指示・命令』の意味があります。

●あがっておごやえ・・・意味は「召し上がってください」「食べてください」ですが、「あがやえ」より丁寧な言い方です。お店の人がお客さんに言う時に「あがっておごやえ」と言います。

なお、「あがやえ」や「あがっておごやえ」から考えますと、「あがる」とは「食べます」と言う意味になりそうですが、実際には単独で「あがる」とは言いません。あくまで、お客さんに対して言うセリフとして「あがやえ」や「あがっておごやえ」があるのです。

また、「あがっておごやえ」はお客様に対する言葉という感じですが、私には庶民同士の言葉というニュアンスと「食べてみてください」とか「お食べ願います」と言うような「食べる」行為をお願いしているニュアンスを持った言葉に感じています。このお願いとは、遠慮してなかなかお茶おけ（菓子や漬物など）を食べないお客様に対して、食べるようにうながす意味もあります。

●あがな（あげな）・・・例題です。「あがな（あげな）ごどすつからよ、おがしぐなんな」。これは「あんなことをするから、おかしなこと（変なこと）になるのだ」という意味です。この例題は、「あんなこと」つまり「余計なこと」あるいは「誤ったこと」をしたために、事態はおかしなこと・変なこと・取り返しの付かないことになってしまった、という内容です。

もうひとつ例題です。「あがな（あげな）、いいべ」。これは「あれは、（もう）良いだろう」という意味です。この「あれは」とは、「あのことは」という意味もあれば、「あの人は」という意味の場合もあります。

「あのことは」とは、例えば、ケンカの原因になった「こと」、あるいは「問題」を指します。でも、その「こと」は、水に流して「もう良いです」となったのが例題です。あるいは「問題」を「問題」にしないで「もう良いです」という場合も考えられます。

「あの人は」とは、ケンカしたり・意見が合わない「人」に対して、「許す」「気にしない」さらには「無視する」というような場合で、「あの人のことは、もう良いです」となります。

このように「あがな（あげな）」は「あんな」という意味ですが、それは「事」から「人」までを含みます。

●あかぴっぴ・・・例題です。「このあかぴっぴ、めんごいごど」。これは「この赤ちゃん、かわしいですね」という意味です。

「あかぴっぴ」とは「赤ちゃん」のことです。

●あがめしょっぱいび・・・例題です。子ども同士です。「ねえねえ、鬼ごっこして遊ぶべ」「あがめしょっぱいび」。これは「ねえねえ、鬼ごっこして遊ぼう」「あかんべー」という意味です。つまり、「遊ぶべ」という誘いに対して、ことわるために「あがめしょっぱいび」と言ったわけです。

ではなぜ「遊ばね」{遊ばない}と言わずに「あがめしょっぱいび」と言ったのでしょうか。いろいろありますが、まず考えられるのが「お前なんかと遊ばない」という意味が含まれている場合です。これもいろいろあって、「嫌いだから遊ばない」という場合もあれば、本当は友だちなのに、たまたまケンカした後か、たまたま気分的にその子を遊びたくない時だった、という場合もある

でしょう。

それから、誘いをことわる際、遊び心で「あがめしょっぱいぴ」と言う場合もあります。冗談半分の場合もあるでしょう。よく小さな子どもが、お目々で「あかんべ〜」して遊ぶことがあります。これは、あくまで遊びであります。

「あがめしょっぱいぴ」は、だいたい子ども同士で使いますが、中にはこんな例もあります。おかあさんが子どもにおつかいを頼みます。そこで子どもがおかあさんに「あがめしょっぱいぴ」。ただ、いくら親子でも、自分の子どもから「あがめしょっぱいぴ」されたら、おかあさんは怒るでしょうけど・・・。

「あがめしょっぱいぴ」にも3段活用があります。標準というか軽いのが「あがめしょっぱいぴ」。少し強く表現する場合は「あがめしょっぱいぴ〜」。さらに、ねちっこく表現する場合は「あがめしょっぱいぴ〜だ！」。「あがめしょっぱいぴ」の3段活用は、私の独断での説明です。こんな説明に「あがめしょっぱいぴ」と思われる方がいるかもしれませんね)

「あがめ」は「あかめ」がなまったもので「あかんべ〜」という意味でしょう。「しょっぱい」は「塩辛い」です。「イヤだ」とことわることを強調するために「しょっぱい」をくっつけたのでしょうか。さらに「ぴ」まで付いています。

というわけで、「あがめしょっぱいぴ」という言葉がどのようにして生まれたかはわかりません。もっとも子どもたちが使う言葉について深く突っ込んでも、わからないことが多いかもしれませんね。

●あがもも（あかもも）・・・トランプの「ハート：♥」のことです。

●あがやえ・・・例題です。「このナスづけ、おらが、こしゃったんだ〜。あがやえ」。これは、お客さんに対して、言うセリフです。「このナス漬け、私が作ったんだよ。食べてください」という意味です。「あがやえ」は、どちらかと言いますと、親しいお客さんに対して使います。

●あがれ・・・お客さんが来ました。米沢では、ちょっとした用事でも、お客さんを家の中に入れてもらうよう、案内します。そこで言うセリフが「あがってください」「あがっておごやえ」です。親しい人には「あがれ」と言います。

「あがれ」は「(家の中に) 入って」、「あがってください」は「(家の中に、どうぞ) 入ってください」、「あがっておごやえ」は「(家の中に) お入りください」という意味です。

●あきさか・・・例題です。「おまえ、東京さいったな、去年のあきさかだったずな」。これは「お前が東京へ行ったのは、去年(昨年)の秋だったよね」という意味です。

「あきさか」とは「秋」のことです。使い方は、例題のように「去年の秋」「以前の秋」「過去の秋」や「将来・未来の秋」の場合に言います。例えば、「運動会はあきさかにすっぺ」(運動会は秋にしましょう)と言います。ですから、「現在の秋」には使いません。

●あぐだえ・・・例題です。「あいづ、あぐだえ、つかしたじゃ〜」。これは「あの人、悪口、言っているよ(語っているよ)」という意味です。

「あくだえ」は「悪口」という意味です。

どうしても「あくだえ」（人の悪口）はグダグダを語りますので、「あくだえ、つかしてんな」（悪口、言うな）（悪口、言っているな）（悪口、言うのやめなさい）とか、例題のような感じになります。

●あくど・・・意味は「かかと」です。例題です。「あくど、ぶった」は「かかとをぶつけた」という意味です。かかとを何かにぶつけたため、痛みながら言っているセリフです。

「あくど」は米沢以外でも広く使われている方言でした。しかし、私自身は子どもの頃からあまり聞いたことがない言葉です。特に最近では、ほとんど聞かない言葉で、廃れつつある方言のひとつです。

●あげも・・・お墓や仏壇にお供え物を供えることを「あげも」と言います。例えば、「ぼだもち、あげもすんべ」とか「もだもち、仏壇にあげもしてがら、食べるんだぞ」と言います。ただし、この「あげも」という言葉は、米沢でもごく一部の人がしか使わない・言わないチョーマイナーな言葉です。

●あざぐ・・・例題です。「ボールペン、かりつつお。机、あざぐぞ」。これは「（お前の）ボールペンを借りるよ。（だから）（お前の）机の中を見るよ」という意味です。この場面は、ボールペンを借りようとしている人が、ボールペンを探すために、ボールペンの持ち主の机の引き出しを開けようとしている場面です。

「あざぐ」とは、他人のモノの中を、あるいは他人のプライベートところを「見る」という意味です。しかも、単に「見る」のではなく、ある目的のものを「探す」ために「見る」という意味です。

ですから、「あざぐ」となりますと、目的のものを「探す」ために「手を付ける」という意味合いまで出てきます。例えば、ボールペンを探すために、ほかのものを「動かす」ということになるわけです。

「あざぐ」場合には、言うまでもなく、前もってことわることです。いくら親しい仲でも・・・。

●あっあえ（あっあい）・・・私が子どもの頃です。近くの駄菓子屋へ駄菓子を買いにいきます。店に入ります。その時「あっあえ～」と言います。おばちゃんが出てきて「何、ほしいなだ」と言います・・・

「あっあえ」は、お客さんがお店に入る時に言います。単に「ごめんください」というだけでなく、「買いにきました」という意味も含みます。

「あっあえ～」と言う時には、独特のイントネーションがあります。文字で表現できないのが残念です。

今「あっあえ～」で通用するお店は、あるのでしょうか。

なお、「山形県内では「か～う～」という地域がけっこうあります。

●あっか・・・例題です。「お前のうっちゃ、こだつ、あっか」。これは「お前の家に、コタツあ

るか？」という意味です。

このように、「あっか」は「あるか？」という意味です。「あっか」は、親しい人同士で「モノがあるか」「在庫があるか」を聞く時に使う言葉で、広い意味では、丁寧な言い方の「ありますか？」も含まれますが、実際には「あるか？」と訳した方が適切な言葉です。

●あっかず・・・「(そんなこと) あるのか!」「(そんなの) ないよ!」「(そんなの) 考えられない!」「(そんなの) あり得ない!」さらに「ウソだろう!」という意味です。また「(そんなの) 納得できない!」という意味もあり、そのことで「参った!」という意味で「あっかず」と言う場合もあります。

例題です。ファミリーレストランです。メニューを見ます。なんと、知らぬ間に値上げになっていました。そこで言うセリフは「あっかず」。こういう場合、普通なら広告などで値上げすることを広報しますが、例題は、事前の広報もないまま、突然値上げしたという設定です。

この例題から、いろんな例題が想像できるでしょう。家賃・電気料・ガソリン代・灯油代の値上げに対しても「あっかず」と言います。

例題です。高速道路です。突然の事故で交通止めに。前に進みません。国道に下りるしかありません。でも、これでは目的地へ予定時間までに到着できません。そこでがく然としながら言うセリフは「あっかず」。事故を起こした人への憤りの思いも含まれます。

法制度でもさまざまな「あっかず」があります。冤罪もそのひとつです。予想もしない判決に出るセリフは「あっかず」。

(ここから 2012 年 11 月 8 日記載)

東日本大震災では、無数の「あっかず」が起きました。

原発事故も「あっかず」です。国や東京電力から「安全だ」と言われてきた福島の人にとって、原発事故はまさに「あっかず」です。国や東京電力は「想定外」と言いました。それは国や東京電力が「あっかず」と言っているようなものです。しかし、国や東京電力に「あっかず」という資格はありません。でも、国や東京電力は堂々と「あっかず」と言っています。憤りをおぼえるしかありません。「あっかず」と言えるのは、福島の人たちであり、私たち国民なのです。

仮に中小企業が、従業員や地域住民の健康や命を脅かす事故を起こしたらどうなるでしょう。「あっかず」なんて言えるはずもありません。厳しく責任を追及されます。倒産に追い込まれるかもしれません。しかし、東京電力の場合、倒産はありません。なぜなら、東京電力が倒産したら、日本という国がマヒするからです。諸外国からは「日本は電気事業に於いてどうして一社独占なのか？」と指摘されている、という話も聞いています。

2012 年 11 月 7 日付けの“ひとりごとダイアリー”でご紹介した「福島県は山形県など福島県からの避難者を受け入れている自治体(23 県)に対して、新たに福島県から県外へ避難する人たちに対する借り上げ住宅の無償提供を、2012 年 12 月 28 日をもって打ち切るよう要請する通知を行った」も、福島の人たちにとっては「あっかず」です。(ここまで 2012 年 11 月 8 日記載)

●あっかっしゃ・・・例題です。お店です。客が入ってきて「だいこん、あっかっしゃ」。これは「大根、ありますか？」という意味です。

「あっか」が親しい人同士で「モノがあるか」「在庫があるか」を聞く時に使う言葉なのに対して、「あっかっしゃ」は丁寧な言葉遣いですので、「ありますか？」と訳するのが適当です。だから、例題のように、客がお店の人に尋ねる時などに使う言葉です。

●あつけな・・・「あがな（あげな）」とほぼ同じ意味ですが、「あがな（あげな）」は「あんな」から訛ったのに対し、「あつけな」はさらに強い意味合いがあります。

例えば、怒った時には「あつけな！」と吐き捨てるように言う場合もあります。この「あつけな！」は「事」「モノ」だけでなく「人」に対しても言います。

「あつけなヤツと、つぎあうな」（あんなヤツとは、付き合わないこと）「あつけなごど、すっからよ」（あんなこと、するからよ・・・）「あつけなもの、買ってくんなよ」（あんなもの、買ってくるなよ）など、いろんな場合に言います。

●あったげ・・・例題です。木枯らしが吹きます。寒いです。たき火をします。暖かいです。そこで言うセリフは「あったげえごど」。これは「暖かいです」という意味です。

「あったげ」は「暖かい」という意味です。「あたたかい」「あつたかい」からさらに訛った言い方です。寒い外から暖かい部屋に入れば「あったげえごど」。心身共にあつたまるお風呂に入れば「あったげえなあ」となります。

「あったげ」は、心の温かさ・人の温かさにも使われる言葉です。「おまえはあつたげえやづだな～」という言い方をします。ただ、私の周囲では、心の温かさ・人の温かさという意味の「あつたげ」はあまり聞いたことがありません。

●あっちゃ・・・例題です。「あっちゃ、いげ」。これは「あっちへ行きなさい（行け）」という意味です。

「あっちゃ」は「あっちへ（に）」「あちらへ（に）」という意味です。「あっちゃ」は「今いるところから遠いところへ（に）」という意味ですので、場所が指定・特定される「あそこへ（に）」という意味ではありません。

例題では、「おまえは邪魔だから・・・」などの思いがあり、「あっちゃ、いげ」となったケースです。

●あつぽ・・・帽子のことです。でも大人には言いません。幼児に対する言葉です。「あつぽ、かぶれ」は「帽子かぶりなさい」という意味です。帽子について言えば、「しゃつぽ」とも言います。

「しゃつぽ」ですと、大人に対しても言えます。

●あてづっぽ・・・ことわざに「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」があります。「あてづっぽ」は、このことわざの「下手な鉄砲」に当たる言葉と言えます。

例えば、試験問題に対して、答えがまったくわからない場合、「思い付くまま」に、あるいは「いい加減」に、または「根拠もなく」、次から次に答えること（さま）を「『あてづっぽ』で答えている」と言います。これは良いことではありませんので、先生から「あてづっぽで、こたえでいんなず」と叱られてしまいます。

標準語として「当てずっぽう」という言葉があります。でも、米沢では「あてづっぽ」または「あてつっぽ」と言います。それで方言として取り上げました。

なお、「当てずっぽう」の意味を調べてみますと、「いいかげんな見通しで事を行うこと。また、そのさま」と記されています。これは「あてづっぽ」にも言えます。すなわち、話す行為だけでなく、いい加減な「行動」に対しても「あてづっぽ」と言います。

●あばたば（あばとば）・・・これは、落ち着かない様子、あわてている様子を指す言葉で、「ドタバタ」という意味です。

例えば、出掛ける時間が迫っているのに携帯電話が見つかりません。大あわてで探します。家中あちこち探し回ります。そんな大あわての様子、ドタバタしている様子、これが「あばたば（あばとば）」です。

「なに、あばたばしたんだず〜」は「なぜ、大あわてになっているの?」「なぜ、落ち着かないの?」「なぜ、ドタバタしているの?」という意味です。

気揉み性分の方は、急ぐ必要がないほど時間があっても、落ち着かず、セカセカしがちです。こういう人に対しては、「あばたば（あばとば）すんな（ず〜）」とか「あばたば（あばとば）してんなず〜」と言う場合があります。これは「（まだ時間があるのだから）ドタバタせずに、落ち着きなさい」という意味です。

先の例題では、ドタバタしながら携帯電話を探している場面を設定しましたが、「あばたば（あばとば）すんな（すんなず〜）」と言って、落ち着いて探すように促しますと、意外に見つかるものです。

朝です。寝坊しました。遅刻しそうです。こんな時は、あばたば（あばとば）しながら朝の支度をして出掛けることになってしまいます。

●あぶらっこ・・・子どもたちが鬼ごっこを始めようとしています。ガキ大将が「鬼ごっこすんぞ。したいヤヅ、こっちゃこい!」（鬼ごっこで遊ぶよ。遊びたい人、こっちに来て!）と言います。周りの子どもたちが集まります。そこへ小さい子も集まってきました。ガキ大将はその子に「ウ〜ン、お前んどこ、あぶらっこにしてけっから、ちょこっとわぎでみででける。あとで、はめでけっから」（ウ〜ン、お前はあぶらっこにするので、ちょっと脇で見てください。あとで（メンバー）に入れるから）と言います。

こんなケースもあります。同じように鬼ごっこで小さな子どもも集まってきた場面です。ガキ大将はその子に「お前だけは、1回つかまっちゃえも、鬼になんねだっていいがら」（お前だけは、1回捕まれても、鬼にならなくてもいい（ことにする））と言います。

「あぶらっこ」はひとつの単語ですが、これを説明する単語が思い付きません。なかなか説明は難しいです。

子どもたちの遊びの世界には年齢制限がありません。鬼ごっこで遊ぼうとすると、小学生から就学前の幼児まで集まります。また、運動の得意な子ども、苦手な子どもなど、いろいろな子どもがおります。

このまま鬼ごっこを始めますと、年齢の低い子どもや、運動の苦手な子どもばかりが鬼になってしまいます。そこでガキ大将は、2つの方法を考えます。

1つはしばらく脇で見させる方法です。これは、しばらく見ていて、遊びの要領がわかると、参加することになります。これが「あぶらっこ」です。

もう1つは、ハンディキャップを付ける方法です。例題では「1回捕まっても鬼にならなくていい」がハンディキャップになります。これで、格差を縮めるのです。これが「あぶらっこ」です。

「あぶらっこ」とは、仲間はずれにするのではなく、少しでも仲間に入れてあげようという思いから発生した言葉です。

地域によっては「あぶらっこ」を「あぶらしっこ」「はめちっこ」と言います。でも、私の周囲では「あぶらっこ」でした。

●あまけ・・・例題です。「きょうはあまけの天気だずな〜」。これは「きょうは雨（の天気）ですな」という意味です。

「あまけ」とは、（天気が）「雨」という意味です。ただ、どちらかという、「本降りの雨」を差すのではなく、「雨が降っていそうな天気」「雨が降りそうな天気」を差して言うことが多いです。ですから、これから予定がある場合には、心配する気持ちをこめて「あまけだずな〜」と言います。

「雨の気配」がなまった言い方とも考えられます。

●あまごい・・・例題です。「この饅頭、あまごいごど」。これは「この饅頭、甘いな〜」という意味です。「この饅頭、あまごくて、うまいごど」。これは「この饅頭、甘くて、美味しいな〜」という意味です。

「あまごい」とは「甘い」という意味です。

「あまごい」と言われる対象は、主にお菓子ですが、ジュースなどの清涼飲料水や果物などに対しても言います。例えば、「このみかん、あまごいごど」は「このミカン、甘い（甘くて、美味しい）」という意味です。

「あまごい」は、明らかに「甘い」ことを表現する言葉です・例えば、ご飯をよく噛みますと、甘さが出ますが、こういう甘さに対して「あまごい」とは言いません。

ですから、甘いモノが得意でない辛党の人にとって、「あまごい」は「甘すぎる」という意味になります。逆に私のような甘党の人間は「あまごい」モノ、大歓迎です。

とは言っても、最近の私は「あまごすぎる」（甘すぎる）モノは敬遠しています。例えば、砂糖がタツプリ入った甘すぎるコーヒー、砂糖のかたまりのような甘すぎるお菓子などです。

果物など食べてみたら甘くなかったものに対しては「あまごくない」とか「あまごぐね」と言います。

●あれっぱり・・・例題。「あれっぱりしかけんになが」。これは「あれだけしかくれないのか」という意味です。つまり、もらったのは良いけど、数量が少ないことから言ったセリフです。略して、「あれっぱりが」とか「あれっぱり？」と言うこともあります。

「あれっぱり」とは「あれだけ」「あれしか」という意味です。つまり、数量的に「少ない」状態に対して、使う言葉です。



例題です。ここに子どもが5人います。ある人が子どもたちのために、差し入れとして、ショートケーキを買ってきました。その人には感謝しました。でも、本心は「あれっぱりもらっても、じょねずな〜」。なぜなら、ショートケーキは2個しかなかったからです。この場合の「あれっぱりもらっても、じょねずな〜」は、「あれだけいただいても、どうしようもないな〜」「あれだけいただいても、困ってしまうな〜」という意味です。

●あんじゃ・・・例題です。「パソコン、わすっちゃ」「あんじゃ」。これは「パソコン、忘れちゃった」「ありゃ〜」という意味です。

もうひとつ例題です。ポスターを手描きで作っています。みんなでの話し合いで「真ん中の丸いところは赤い色にしよう」と決めました。メンバーのひとりが塗り始めます。ところが塗った色は青。周りのメンバーが発する言葉は「あんじゃ」。

さらに例題です。きょうはみんなで飲み会です。ところが、ひとりだけ、なかなか来ません。電話をします。「いま、どさいんなよ」（今どこにいるの・・・「まだ来ないのか」というニュアンスです）「なんだっけ」「飲み会だべ」「きょうだっけか。明日だと思ってだ。へへへ！」「あんじゃ」。

「あんじゃ」は「ありゃ〜」「あれま」という意味です。怒りではなく、ガックリ来たり、呆れたりした時に発する言葉というより、ため息のような感じです。

3番目の例題では、詫びるどころか「へへへ！」でごまかされてしまいましたので、まさに「あんじゃ」の心境です。

●あんちゃ・・・例題です。「あんちゃ、どっかさ、つっちえってけろ」。これは「お兄ちゃん、どこか（遊びに）連れてって」という意味です。

「あんちゃ」とは「お兄ちゃん」「兄貴」という意味です。どちらかという、小さな子どもが、実の兄に対して言う言葉です。

「あんちゃん」という言葉があります。ただ、私には、「あんちゃん」は「実の兄」というより「世話になっている年上の兄貴分の男性」に対して使うというニュアンスです。

●あんな・・・例題です。「そごさあんな、まるっと、よごせ」。これは「そこにあるもの、すべて（私に）よこしなさい」という意味です。

「あんな」とは「あるもの」という意味です。ただ「あんな」だけではわかりませんので、例題のように「そごさあんな」というように言います。

「おもちゃ、もってきてけろ」「どさあんな、ほしいな」「そごさあんなだず」。これは「おもちゃ、もってきてください」「どこにあるおもちゃがほしいの？」「そこにあるおもちゃです」という意味です。

もうひとつ例題です。「おもちゃ、もってきてけろ」「どさあんな？」。これは「おもちゃ、もってきてください」「（おもちゃは）どこにあるのですか？」という意味です。

この場合の「あんな」とは「あるの？」という意味です。ただ「あんな」だけではわかりませんので、「どさあんな？」「どごさあんな？」「どごさあんなだず？」などと言います。

●あんばい・・・例題です。「あんばい、どうだ？」は「(身体の) 具合は、そうですか？」という意味です。また「あんばい、いいが？」は「(身体の) 調子、良いですか？」という意味です。これに対して「あんばい、いいよ」とか「あんばい、いいべ」と答えます。「あんばい、いいよ」ですと「(身体の) 具合は良いです」となりますが、「あんばい、いいべ」は(本当は完全に良いのではないが)「まあ、良い方だろう」という意味で言うことがあります。この場合の「あんばい」は「(身体の) 具合・調子」という意味です。

次の例題です。味噌汁を作っています。ダシをとりました。さて、どんな味になっているでしょうか。ちょっと自信がないので第三者に味を見てもらうことにします。そこで発するセリフは「あんばい、みでけろ」。これは「味加減、みてください」という意味です。頼まれた人は、小皿に汁をとって、味見します。そして、「おいしい」とか「もう少し・・・」などと言います。このように「味見」することを「あんばいみ」と言います。このように、「あんばい」には「味加減」という意味もあります。

さらに、こんな時も「あんばい」が使われます。例題です。「風呂のあんばい、みでけろ」。この場合の「あんばい」は、風呂のお湯の「温度」を指します。ちょうど良い温度ですと、「いいあんばい」となります。良い湯加減の温泉に入りますと、思わず出るセリフが「いいあんばいだ〜」。この場合の「あんばい」は「湯加減」を意味します。

こんなテレビCMがありました。それは、タクシーのCMです。おばあちゃんがタクシーの乗って「いいあんばいだ〜」。これは、タクシーの乗ることで「楽ができる」「楽ちん」から「気分良い」「良い具合だな〜」という意味の「いいあんばいだ〜」です。

長い冬が終わって、ポカポカ陽気の春になった時も「いいあんばいだ〜」と言います。これは「良い陽気だな〜」という意味で、それに伴い「気分も良くなった」という意味も含まれます。

畑で野菜を栽培しています。「いいあんばいになったずな〜」「いいあんばいの育ったごど」とは「順調に生育している」「良い具合に育っている」「(野菜が収穫する時期なら) 収穫するのにちょうど良く育っている」という意味です。

このように「あんばい」は、いろんな場合・場面で使われる言葉です。

●あんびん・・・「大福餅」のことです。これで説明はお終いなのですが、これではつまらないので・・・。私が子どもの頃は「あんびん」とばかり言っていましたので、「大福(餅)」という言葉があることすら知りませんでした。それくらい徹底して「あんびん」と言っていたのです。

その内「大福(餅)」という言葉を書くようになった私は、アホなことを言います。それはある餅屋さんでのことです。

私：「あんびんください」

お店のおばちゃん：「売り切れました」

私：「じゃあ、大福は？」

お店のおばちゃん：「あんびんと大福は同じだよ」

私：「アチャー！」

●あんべ・・・例題です。「そさ、あんべ」。これは「そこに、あるだろう」という意味です。

「あんべ」とは「あるだろう」という意味です。すなわち、「そこにあるはずだ」と仮定して、

探ることができない、あるいは見つけることができない相手に対して、「もっとよく探しなさい」という意味合いを含めて言っているセリフです。

●あんぺ・・・例題です。「おらいのおぼごは、あんぺなもんでよ・・・」。もうひとつ例題です。「あいづは、あんぺだずな〜」。これは「オレの子どもは、間抜けなので・・・」「あの人は、ちょっと足りないよね」という感じの意味です。

あんぺは、「間抜け」「(考えや思考力が) 少々足りない」というような意味です。

あんぺは「完璧に馬鹿だな」というニュアンスではなく、「小馬鹿にする」というニュアンスです。つまり、対象とする人を完全に否定するものではありません。また、完全に嫌うものではありません。

ただ、やっぱり、その人を小馬鹿にしていることには変わりません。

2009年1月13日の“まちづくり米沢塾”では、「あんぺ」は「愛情に満ちた米沢のけなし言葉」という意見が出されました。確かに、そういうニュアンスの人もいるでしょうが、みんながそうだとは思えません。同じ米沢の中でも、地域によって通じない米沢弁があるのと、同じです。

●あんま・・・小さな子どもが「あんま、のみだい」と言います。これは「水、飲みたい」という意味です。

「あんま」とは「水」のことです。でも、大人同士では言いません。幼児語です。よく私も、ちいちゃな子どもに対して「あんま、のみだいが」と言ったものです。

●あんまえ(あまえ)・・・例題です。「ちょこつつかいさいってけんにが」「あんまえ(あまえ)」。これは「ちょっと買い物に行ってくれないか」「いいよ」という意味です。

「あんまえ」は、頼まれたことに対して引き受ける「いいよ」「わかった」という意味や、指示されたことに従う「いいよ」「わかった」という意味の言葉です。

例題です。「オレ、あした山形さ行っていいべが」「あんまえ」。これは「私、明日山形に行っていくでしょうか」「いいよ」という意味です。これは、承諾する意味の「あんまえ」です。

ところで、この「あんまえ」、確かに私も子どもの頃は聞いた言葉ですし、私もしゃべっていました。ところが、いざここで説明文を書こうとしますと、なかなか思い出せず、私としては「ここまでは的確に説明していないのではないか」と不安になってきました。

それは最近ほとんど聞かないからです。やはり方言の世界も、長生きする方言と使われなくなり廃れてしまう方言もあるのでしょうか。

こんなことを考えていたら、もうひとつ例題を思い付きました。「オレどいっしょに山形さ行ってけんにが」「あんまえ」。これは「私どいっしょに山形へ行ってくれませんか」「わかった。いいよ」という意味です。この「あんまえ」は「同意する」という意味を含む「承諾」「引き受ける」です。これが、ここまで紹介した中で、最も的確な例題です。

●あんまぽん・・・例題です。おばあちゃんが孫に言います。「あんまぽん、すつつお〜」。これは「お風呂に入るよ〜」という意味です。おばあちゃんが孫に「いっしょにお風呂へ入ろう」と呼び掛けている場面です。それも、言葉をおぼえたかな・・・という幼児に対してのセリフです。

「あんまぽん」は「お風呂に入る」という意味です。「あんま」は「水」という意味ですが、「入る」という意味の「ぽん」がくっ付きますと、「あんま」は「風呂」という意味になります。

もっとも「あんまぽん」は幼児に対するセリフであり、小学生に対しても言いません。

私などは「**あんまぼ～ん**」と強調して言いました。

●あんめちえ・・・「違う（よ）」という意味ですが、そこには「なにバカなことを言っているんだ。全然違うぞ」「それは大間違いだ」というニュアンスで、強く否定する時や怒りながら否定する時などに言う言葉です。捨てゼリフというニュアンスもあります。「(そんなの) あり得ない」という意味もあります。

例題です。運動会が開かれました。運動会に参加した人が、参加しなかった人へ伝える場面です。「おまえんごのおぼご、はしりっくらで、1等賞だぞ」「そがなごど、あんめちえ」。これは「おまえの子ども、かけっこで1等賞になったよ」「そんなの、ありえない。(バカ言ってるんじゃない)」という意味です。(自分の子どもを信用しましょう)

●いがった・・・「いが(濁音)った」とは「良かった」という意味です。それで「いがったずな～」は「良かったな～」、「いがったごど」は「良かったね」、「いがったでら」は「良かったじゃないか」という意味になります。

例題をいくつか示します。「合格しました」「いがったごど」。「退院しました」「いがったずな～」。

「就職が決まりました」「いがったでら」。

●いがれっか・・・例題です。「買い物さ、いぐぞ。いがれっか」。これは「買い物に行くよ。(いっしょに) 行くことができるか」という意味です。

「いがれっか」は「行くことができるか」という意味の「いかれっか」からさらに訛った言い方です。例題の場合、「いっしょに行って、買い物の手伝いをしてくれ」というニュアンスもあります。

もうひとつ例題です。「医者さ、いがれっか」は、体調が悪い人に対して「医者(病院)に行くことができるか」と尋ねている場面です。体調が悪ければ「医者に行きなさい」となりますが、あまりにも体調が悪ければ、医者(病院)へ行くこともできないからです。

●いがんに・・・例題です。「あした会合あっけんども、いがれっか」「用事あっから、いがんに」。これは「明日会合がありますが、行かれますか(出席できますか)」「(別の)用事がありますので、行けません(出席できません)」という意味です。

「いがんに」は「行けません」「行くことができません」という意味です。

●いぎなし・・・例題です。「いぎなし、ゆうんだず。まいったず」。これは「(Aさん)突然、言うんだよ。まいりました」と意味です。これは、(Aさんが)何の前触れもなく、突然、頼んできたので、ビックリして、まいりました・・・となったという場面です。

「いぎなし」は「いきなり」がなまった言い方で「突然」という意味です。

●いぐ・・・「いぐ（半濁音）」は「行く」がなまったものです。「いぐ」を基本に、いろいろな言い方があります。

「いがんね」は「行かなければならない」という意味です。例えば、「あした、山形さ、いがんねぞ」は「明日、山形へ行かなければならないよ」という意味です。

「いがんに」は「行くことができません」「行かれませんか」という意味です。例えば、「あしたが・・・。山形さは、いがんじゃ」は「明日ですか・・・。（用事があって）山形へは、行くことができないよ」という意味です。

●いぐなる・・・例題です。「あんばい、いぐなったが」。これは「（身体の）具合、良くなりましたか？」という意味です。

もうひとつ例題です。「あそこさ道路でぎだもんで、いぐなったず」。これは「あそこに道路ができたので、良くなった」という意味です。これは「あそこに道路ができたことで、便利になり、良くなりました」という意味のことです。道路ができて「安全になったことで、良くなりました」という例もあります。

「いぐなる」は「良くなる」という意味です。「良くなる」対象は、身体の具合（体調）だけでなく、いろいろな物事が対象になります。

●いさばや・・・「魚屋」のことです。では、魚のことは「いさば」と言うのでしょうか。言いません。魚は「ざっこ」と言います。つまり、「魚屋」を指して、はじめて「いさばや」と言うのです。

郷土史家の小野榮さんによりますと、「いさば」は塩物・干物の魚のことを指し、生の魚は指さないそうです。

小野さんは「江戸時代当時、お大名様が米沢にやってきましたと、米沢藩では、おもてなしとして、生魚を準備しました。それで、新潟から懸命に運んだのだそうですが、やはり臭いがしたそうです」と言います。つまり、それだけ、内陸の米沢では、生魚を食べるのは困難だったわけです。ですから、現実には「いさば」イコール「塩物・干物の魚」となるのです。

ただ、私が子どもの頃の「いさばや」では、生の魚も売っていました。それでも「いさばや」と言っていました。ですから、確かに、元々は「いさば」は「塩物・干物の魚」なのでしょうが、それは、流通事情が確立していない時代のことです。流通事情が良くなり、生魚も売ることができるようになった魚屋も「いさばや」なのです。

●いじる・・・例題です。「そいず、いじっていな」。これは「それ、さわるな（さわっていな）」という意味です。

「いじる」とは「触る」の意味です。子どもが、危ないもの、壊しやすいものをさわっていると、例題のようなセリフが飛び交います。

お見合いでは、恥ずかしそうにしている女性は、よく畳をいじっているそうですが、それは昔の話でしょうか。

●いだましい・・・例題です。「そいず、なげんなが。いだましいごど」。これは「それ、捨てるのか、もったいない」という意味です。

「いだましい」は「もったいない」という意味です。この「いだましい」は、米沢を含め、東北地方で使われている言い方です。さらに、ラジオで聴いて知ったのですが、北海道の一部でも使われている言い方のようです。

●いちかっこ・・・山形独特の言い回しです。『(1)』はなんと読むでしょう。全国的には「かっこいち」と言うのでしょうか。しかし、山形では「いちかっこ」なのです。

●いちまる・・・これも山形独特の言い回しです。数字の「1」を丸で囲みます。これを何といいますか。全国的には「まるいち」と言うのでしょうか。しかし、山形では「いちまる」なのです。

●いっけばる・・・トイレで用をたします。大きい方です。しかし、なかなか出ません。そこで、お腹に力を入れて・・・。この「お腹に力を入れる」ことを「いっけばる」と言います。  
赤ちゃんが真っ赤な顔をして「う～！」とうなっています。こんな時は「いっけばってだ～！」と言います。

●いったごで・・・例題です。「おまえ、ケーキくいだい、といったべ。ほだがら、ケーキ買いに、いったごで」。これは「おまえ、ケーキ食べたい、と言っていたでしょう。だから、ケーキを買いに、行ってきたんだよ」という意味です。

この例題では「ケーキを買ってきて」と直接的に頼まれたわけではありませんが、「ケーキくいだい」という意思表示があったことから、セリフを言った人の判断で、ケーキを買いに、お菓子屋さんに行った、という例です。ですから、この「いったごで」には、恩着せがましいニュアンスもあります。

すなわち、「いったごで」は「あなたに言われなくても、行ってきたんだよ」という意味です。  
例題です。「市役所に行ったが？」に対する「いったごで」は、「当然行ってきたよ」というニュアンスです。

●いっちょげ（濁音）・・・例題です。「おもちゃ、そごさ、いっちょげ」。これは「おもちゃ、そこに、入れておきなさい」という意味です。

「いっちょげ」は「入れておきなさい」を短縮し、さらになまった言葉です。

●いっちょまえ・・・これは米沢だけではなく全国各地で使われている言葉ですが、国語辞書にはない言葉ですので、米沢でもしゃべらっちえきた言葉としてご紹介します。

例題です。「おまえ、いっちょまえになったもんだな～」。これは「お前、一人前になったね」という意味です。これは、例えばですが、誰にも世話されずに、一人で出来たことに対して、評価する意味を込めて言ったセリフです。

もう1つ例題です。「いっちょまえなこど、いうな」。これは「一人前なことを言うな」という意味です。これは「一人前でもないのに、一人前なことを言うな」であり、「一人前でもないのに」とは「一人では何もできないのに」とか「一人では完全にできないのに」といった意味が含まれます。「生意気なことを言うな」という意味も含まれます。

「いっちょまえ」とは「一人前」のことです。

この「一人前」とは、少なくとも私の周りでは、「一人で出来る人間」俗に言う「大人になった」という意味合いで使われています。

ところが、「一人前」とは「一人分」という意味で使われているところもあります。

また、「いっちょまえ」を「一人で出来るちょっと前（の人）」という意味で使っているところもあります。

さらに、「いっちょまえ」とは「道具の1セット」と説明しているものもあります。これが発展して、「道具1セット」を持てるような技術を習得した人間が「いっちょまえ」というわけです。

●いってみやえ・・・例題です。「松岬公園さ、いってみやえ。いいごだよ」。これは「松岬公園に、行ってみなさい。良いところだよ」という意味です。これを意味合いを含めてさらに訳しますと、「松岬公園には、まだ一度も行ったことがないのですね。それでは、(試しに)一度行ってみてください。良いところですよ」という意味になります。

このように、「いってみやえ」とは、直接的には「行ってみなさい」「行ってみてください」「行ってごらんください」という意味ですが、そこには、「まだその場所に一度も行ったことがない」という人に対して、「(試しに)一度行ってみてください」と促す意味合いの言葉です。

促す目的は、例題のように「その場所は良いところ」という場合もありますが、それだけではありません。よく「現場主義」と言いますが、「現場を確認しなさい」あるいは「実際に話を聞きなさい」という意味での「いってみやえ」もあります。

例えば、「そがなごどいうなら、いってみやえ」は「(実際に見聞きもしないで) そのようなことを言うのであれば、(実際に現場へ) 行ってみてください」という意味です。

●いっぺ・いんべ・・・例題です。「あそびさいぐなが。金、いっぺ(いんべ)」。これは「遊びに行くのか。(そうであれば)、お金が要るでしょう」という意味です。それには「お金、忘れないで、持っていきなさい」という意味が込められています。

「いっぺ・いんべ」は「要るでしょう」「必要でしょう」という意味です。「要るでしょう？」という尋ねる言い方ですが、必要であることがわかっていますので、必要であることを「再確認」するために尋ねる言い方をします。そして、「忘れないで持っていきなさい」という意味があります。

●いっぺえ・・・例題です。「いっぺえ、やっか〜」。これは「いっぱい(1杯)やりますか」、つまり「お酒を飲みましょうか」という意味です。お酒のみを誘っている場面です。それも、思い付きで、あるいは軽い気持ちで誘っている場面です。

「いっぺえ」は「いっぱい(1杯)」という意味です。それも「お酒の1杯」という意味です。「いっぺえ」は広く使われる言い方ですが、私の周りでも言う人がいました。

●いづんでも・・・「いつでも」がなまった言い方です。「いづんでも、来てかまね」は「いつでも(我が家に)来ても構わないよ」です。

「いづんでも、いいよ」は「いつでも、良いです」という意味です。計画や日程を決める時に

出るセリフです。

●いま・・・例題です。「いまちっと、けんにか」。これは「もう少し、くれないか（もらえないか）」という意味です。

「いま」とは「もう」という意味です。

●いまと・・・「いま（今）」には「さらに」「そのうえ」「もう」という意味があります。例えば「今一度、やってみます」は「もう一度、やってみます」という意味ですし、「いますこし、けんにか」は「もう少し、くれないか」、「いましばらくの間」は「もうしばらくの間」という意味です。

これが「いまと、けんにか」となりますと、「もっと、くれないか」という意味になります。「いまと、勉強しろ」は「もっと、勉強しろ」、「いまと、あそぶべ」は「もっと、遊ぼう」という意味です。

「いまと」は「もっと」という意味です。

●いまに・・・「今すぐに」という意味ではありません。まったく違います。「あとで」とか「またあとで」という意味です。

「いまにすっぺ」は「あとでやりましょう」という意味です。誤解されそうですね。

「いまに」は、「さようなら」「バイバイ」の代わりにとも言います。つまり、別れる際、再開を約束する、という意味もあります。私などは「またいつか」というニュアンスもあります。「またいつか」ということは、再開までの時間が長いわけです。

●いやんばえ・・・「良いあんばい（え）」がなまった言い方です。「あんばい」については「あんばい」の項をご覧ください。

●いらね・・・例題です。「へつけなもの、いらね（ず）」。これは「そんなもの、要らない（よ）」という意味です。

「いらね」は「要らない」「必要でない」という意味です。

「いらね」は「要らない」を短縮した言い方に思います。また、方言というより、広く使われている言葉です。しかし、辞書には出てこない言葉です。俗な言い方なのでしょう。それで取り上げました。

●いんなあど・・・例題です。「あした運動会だべ。お弁当、いんながえ」「いんなあど」。これは「あした運動会だべ。お弁当、いんながえ」「いるらしいよ」という意味です。

さらに例題です。運動会当日です。お弁当を持ってこなかった人に対して言うセリフは「お弁当、いんなあど」です。これは「お弁当、いるという話だったよ」という意味です。

もうひとつ例題です。運動会当日です。お弁当を持ってこなかった人同士でのセリフです。「お弁当、いんなあど」です。これは「お弁当、いるんだってよ」「お弁当、いるって話だったんだって」という意味で、これには「自分たちは聞いていなかったよね」「連絡が徹底していないよ



ね」というニュアンスがあります。

「いんなあど」は「いるらしいよ」「必要らしいよ」とか「いるということ（話）だったよ」「必要という（話）だったよ」という意味や「いるってということ（話）だったんだって」「必要ということ（話）だったんだって」という意味です。

「いんなあど」には、もうひとつ別の意味があります。例題です。「きょうの午後、事務所さ社長、いんなあど」。「これは、きょうの午後、事務所に社長が居るんだって」という意味です。これには「居てほしくない」というニュアンスがあります。

このような場合の「いんなあど」は、（居てほしくない人が）「居るんだって」「居るという話だっって」「居るって聞いたよ」という意味です。

●いんながえ・・・例題です。「あした運動会だべ。お弁当、いんながえ」。これは「明日は運動会だよ。お弁当、いるんだろうか？（持っていかなければならないのでしょうか?）」という意味です。

もうひとつ例題です。「あした、Aさんどごさ、いぎだいんだげんど、Aさんいんながえ」。これは「明日Aさんの家に行きたいのですが、Aさんは（家）に居るのかな？」という意味です。これには「居てほしいなあ」というニュアンスがあります。

このように「いんながえ」には2つの意味があります。1つは「いるんだろうか?」「必要なのだろうか?」という意味です。もうひとつは「（その場所に）居るのかな?（居てほしいなあ）」という意味です。

●うげっくら・・・私が子どもの頃「うげっくら、すんべ」というセリフを言ったり聞いたりしました。しかし、今ではほとんど聞かない言葉です。かなり懐かしい言葉です。

「うげっくら」の「うげ」は「うけ」が訛ったもので、「うけ」とは「受ける」のことです。何を受けるのか、と言いますと、それは「ボール・球」です。野球やソフトボールの「ボール・球」です。「くら」の語源については、よくわかりません。「比べる」から来たのでしょうか。それでも、「くら」は「互いに・・・し合う」、つまり広い意味での「遊び」というニュアンスであることは想像できます。

「うげっくら」は、ボール（球）を受け合いこと・受け合う遊びのこと、つまりキャッチボールという意味です。

●うだで・・・これは実際にあった事例です。木の枝から落ちてきた雪の塊が自転車のおじさんにかかりました。水分をタツプリ含んだ雪の塊ですので、おじさん、濡れてしまいました。おじさん言いました。「うだで」と。

この「うだで」は、単に「濡れた」という意味だけではなく、濡れたことで「イヤな気分になった」という意味や、雪の塊に対する恨みの意味も含みます。ですので、「うだで」を標準語に訳すのは難しいです。

例題です。「あいづは、うだでやづだ」。これは人を形容する言い方で、「だで」と同じであり、「あの人は、うざったい人だ」「あの人は、けむたい人だ」「あの人は、いやな人だ」「あの人は、くどい人だ」「あの人は、しつこい人だ」というような意味です。ただ、「だで」より「うだで」

の方が、ねちっこい言い方です。

●うだでくて・・・例題です。「あいづ、そがなごどしたな！ うだでくて」。これは「あの人、そんなことをしたのですか。あきれね」という意味です。このように「うだでくて」は「うだで」の意味のほかに「あきれね」のような軽蔑するというニュアンスが含まれてきます。

●うっしょ・・・「うしろ（後ろ）」という意味です。

例題です。「携帯、どこさいったべ」「うっしょさあんぞ」。これは「携帯、どこにあるかな」「うしろにあるよ」という意味です。

●うっしょまえ・・・例題です。「うっしょまえだず」。これは「服、前後逆に着ているよ」という意味です。

「うっしょまえ」は「後ろ前」がなまった言い方です。何が「後ろ前」と言いますと、服の着方です。「後ろ前」反対に着ますと、「うっしょまえだず」と言われてしまいます。

ただ、私が思い付くのは、服の着方の「うっしょまえ」だけです。また、「まえうっしょ」とは言いません。

●うっちゃ・・・例題です。「うっちゃ、かえる」。これは「(自分の) 家に帰る (帰ります)」という意味です。

「うっちゃ」は「(自分の) 家に」「(自分の) 家へ」「(自分の) 家さ」という意味です。

「うちさ」がなまって「うっちゃ」になったものと思われます。

「うっちゃ、こねが」は「(おれの) 家に来ないか」という意味です。

●うるがす・・・

例題その1です。「このワラビ、うるがすぞ」。

例題その2です。「食い終わったら、茶碗、うるがしておげ」。

まず、例題その1について。ワラビとは山菜のことです。春に採ったワラビを保存するため、日に干して乾燥させたり、塩漬けにします。そのワラビをもどすために、水に浸します。水に浸されたワラビは、ふやけて柔らかくなったり、塩が抜け、もとにもどります。このように、食材などを水に浸すことを「うるがす」と言います。

逆に言いますと、単に水に浸すことを「うるがす」とは言いません。水に浸すことで「もとにもどる (ふやける・柔らかくなる・塩が抜ける)」という食べるのに都合良く変化することを期待する時に「うるがす」と言います。

「うるがす」ものは食材ではありません。例題その2では「茶碗をうるがせ！」と指示しています。茶碗をうるがしておけば、(汚れにもよりますが) 汚れが落ちやすくなることを期待できるわけです。

「うるがす」は今でも自然に使っている言葉です。私も普通に使っています。方言という意識はありません。だから、「究極の米沢弁・置賜弁のひとつ」とご紹介したのです。それで、「うるがす」が通じないと、大きなカルチャーショックとなるのです。

●うわっぱり（上っ張り）・・・辞書では「仕事がしやすいように、また、汚れを防ぐために、衣服の上に着る事務服や白衣の類」（大辞泉）で説明されている言葉ですが、米沢では「寒さを凌ぐために上に羽織るもの」という意味もあります。ただ、防寒の意味での「上っ張り」は、最近ではあまり聞きません。

●うんと・・・例題です。子どもが駄菓子をほしがって言うセリフは「うんと、けろ」。これは「たくさん、ください（ちょうだい）」という意味です。

「うんと」は「たくさん」「いっぱい」という意味です。

「うんと、もってこいよ」は「たくさん、持ってきてください（持ってきてくれ）」という意味です。

「うんと、いいごどあんべ」は「(きっと、これから)たくさん、良いことがあるでしょう」という意味です。

●うんめ（え）・・・例題です。「こいず、うんめ（え）ごど」。これは「これ、美味しいです（美味しいよ）」という意味です。

「うんめ（え）」は「美味しい」という意味です。「うまい」がさらになまった言い方です。

●ええごで（いいごで）・・・例題です。子と親の会話です。「おれ、あそこの会社さ、はいっごどにしたじゃあ。いいべが」「おまえが、そうゆうんだごんじゃ、ええごで（いいごで）。これは「私、あの会社に入ることになりました。良いでしょうか」「おまえが、そのように言うのであれば、良いのではないか」という意味です。

「ええごで（いいごで）」は「良いのではないか」という意味です。

例題のように「良いか悪いか」を聞かれた時に、聞いた人の判断は尊重するものの、本心は「本当に良いのかな？」や「本当に良いのかはわからないけど」という思いがあるため、「良いよ」とは言わずに、「良いのではないか」という意味で、「ええごで（いいごで）」という言い方をするわけです。

●ええどごでねえ（いいどごでねえ）・・・例題です。「おばんちゃ、あした、おんせんさつつちえんげんど、ええべが（いいべが）」「ええどごでねえ（いいどごでねえ）。これは「おばあちゃん、明日、温泉に連れていきますよ。良いですか」「良いです」という意味です。

「ええどごでねえ（いいどごでねえ）」は「良いです」という意味ですが、「このほかに良いこと（方法）はありません」「これ以上良いこと（方法）はありません」という意味の言い方がなまったものです。つまり「非常に良いことです」という意味であり。その裏には「とても嬉しいです」という意味も含まれています。

●えなごど・・・例題です。「あした、まげっかもすんにじゃ」「えなごど、いうなず」。これは「明日（の試合）、負けるかもしれません」「変なこと（縁起でもないこと）言わないで」という意味です。

「えなごど」とは「変なこと」「おかしいこと」「縁起でもないこと」という意味です。ここで言う「変なこと」「おかしいこと」とは「良くないこと」「縁起でもないこと」という意味です。

もうひとつ例題です。「 $1 + 1 = 3$ だぞ」「あいづ、えなごど、ゆってんぞ」。これは「 $1 + 1 = 3$ です」「あの、変なこと、言っているよ」という意味です。あり得ない例題ですが、わかりやすいよう例にしました。

この例題での「えなごど」とは「変なこと」「おかしいこと」であり、そこには「理解し難い」という意味合いが含まれます。

●えまに・・・別れる時に使う言葉で、「またね」とか「また、いつか会いましょう」という意味です。つまり、『再開』することを〈願う〉〈誓い合う〉言葉ですが、〈いつ再開するのか〉〈いつ再開できるのか〉がわからない時に使う言葉です。

●えらぐ・・・例題です。おばあちゃんが遊びにきました。そして、久しぶりに見た孫を見て言いました。「えらぐ、おがったごど」。これは「大変、大きくなったね」という意味です。

「えらぐ」とは、「大変」「すごく」「ものすごく」というような意味です。

例題をさらに解説すると、「思っていた以上に大きくなった」「予想していたより大きくなった」という意味のほかに、「大きくなったことをほめている」という意味もあります。

次の例題です。「おまえの部屋、えらぐ汚いごど」。これは逆に「思っていた以上に」や「予想していたより」のほかに「大変、汚いね」という「驚き」「嘆き」「怒り」の意味もあります。

米沢は雪国なので、冬になると「えらぐ積もったごど」というセリフを頻繁に聞きます。

●おえだる・・・例題です。「明日、ここさ、社長が、おえだると（おえだんど）」。これは「明日、ここに社長がいらっしゃるそうだよ（いらっしゃるそうだって）」という意味です。

「おえだる」は「来る」という意味ですが、自分より目上の人（上司など）・得意先やお客様・尊敬する人・社会的に身分のある（と思う・と思われる）人などが「来る」という場合に使う言葉ですので、「いらっしゃる」「おいでになる」という意味になります。

●おがもす・・・例題です。「おまえんどご、朝、かみさまんどご、おがもしたか？」「おがもしたよ」。これは「おまえ（あなた）の家では、（毎）朝、神様を拝んでいますか？」「拝んでいますよ」という意味です。

「おがもす」は「拝む」という意味です。例題では、「家（住宅）の中に祭られている神様に対して、毎朝手を合わせ、頭を下げて、お祈りしているのですか」と尋ねているのに対して、「毎朝お祈りしています」と答えている場面です。

「拝む」は、神様・仏様だけではありません。人間対しても「拝む」ことがあります。

例題です。「じいちゃんどごさいって、おがもしてこい」は「おじいちゃんの家に行って、（おじいちゃんの顔を）拝んできなさい」という意味です。これは「おじいちゃんの顔を見に行きなさい。そしておじいちゃんからいろんなことを教えてもらいなさい」という意味が含まれています。「おがもす」とは「見る」の謙譲語でもあるからです。さらには「おじいちゃんに、あなたの元気な顔を見せてきなさい」という意味合いもあります。

「拝む」には「珍しい物、大事な物などを拝見・拝観する」という意味もありますが、「おがもす」では、この意味で見聞きしたことは、少なくとも私には記憶ありません。例えば、「上杉記念館でよ、国宝の洛中洛外図屏風、おがもしたよ」とは言いません。

●おがる・・・例題です。おばあちゃんが遊びにきました。そして、久しぶりに見た孫を見て言いました。「えらぐ、おがったごど」。これは「大変、大きくなったね」という意味です。

「おがる」とは「大きくなる」という意味ですが、風船をふくらませて大きくなったことを「おがった」とは言いません。「成長する」という意味が含まれているからです。

「おがる」は人だけでなく、植物・動物にも対しても言います。「キュウリ、おがったごど」などと言います。でも、おがりすぎると、美味しくなくなりますので、適当な大きさになったら収穫します。

●おごやえ・・・「してください」の意味です。「おらえのうっちゃ、きておごやえ」なら「私の家に来てください」という意味です。「来なさい」という指示や命令ではありません。お願い、あるいは招待という意味での「来てください」です。

●おさえ・・・例題です。「きょうのおさえはなんだべ」。これは「きょうの（弁当）のおかずは何かな」という意味です。

「おさえ」とは「おかず」のことです。それも「弁当のおかず」というイメージです。だから、食卓に出されるおかずに対して「おさえ」と言ったり聞いたりした記憶はありません。

説明文を書きながら、その昔、母が私の弁当の「おさえ」をつめる姿を思い出しました。それにしても、今では「おさえ」という言葉、まったく聞きません。消えつつある方言のひとつかもしれませぬ。

●おしょうしな・・・もっともポピュラーな米沢弁です。もちろん「ありがとう」の意味です。ところが、「おしょうしな」には三段活用があるのです。

●おしょうしなっし・・・もっとも丁寧な言い方で「ありがとうございました」「ありがとうございます」というニュアンスです。

●おしょうしな・・・普通の「ありがとう」です。

●おしょうし・・・親しい人に対する言い方で「ありがとよ」というニュアンスです。

●おしょれる・・・例題です。「割り箸、おしょっちゃ！」。これは「割り箸が折れた（折れちゃった）」という意味です。つまり、「おしょれる」とは「折れる」という意味です。

ですから、「折る」は「おしょる」となります。例えば、「この枝、おしょんぞ」というのは「この木の枝（邪魔だから）折るぞ（折ることについて関係者の同意を求めている）」となります。

ところで、こんな言い方をする人もおられます。「お前のおかげで、涙がおしょれる」という言い方です。アレ・・・涙って、折ったり、折れたりするものでしょうか。もちろん、涙を折ることはできません。これは「お前があまりにもアホみたいなことをしたので（お前のおかげで）、呆れ返ってしまった」というような意味です。つまり、呆れたり、嘆いたりすることを強調する言い

方が「涙がおしょれる」なのです。この言い方は「嘆き悲しむ」という表現から「涙」を連想したのでしょうか。よくわかりません。

●おじる・・・例題です。「次のバス停で、おじんぞ（おじるよ）」。これは「次のバス停で、（今乗っているバスから）降りるよ」という意味です。

「おじる」は「降りる」という意味です。車や電車などの乗り物から「降りる」時に言う言葉です。

例題です。「どごで、おじんなよ？」「市役所前で、おじるは～」。これは「どこで降りるのですか？」「市役所前で降ります」という意味です。「おじるは～」という言い方には、場合によっては、本当ならもっと先まで乗っていたいのですが、車に乗せてもらっており、あまり迷惑はかけられないので、「市役所まででいいです」というニュアンスがあります。

目的地に着いたのに、車からなかなか降りない子どもに言うセリフは「はやぐ、おじろ！」。

「おじる」は誤解されやすい方言のひとつです。「落ちる」という意味に間違われるからです。

●おだる・・・例題です。「あそこの木の枝、おだんぞ」。これは「あの木の枝、折るよ」という意味です。

「おだる」は「折る」という意味です。つまり「折る」には「おしょる」と「おだる」という2つの言い方があるのです。2つの言葉の使い分けは、私にもよくわかりません。

●おっか・・・「おかあさん」という意味です。子どもが母親を呼ぶ時に「おっか」と言います。「おっか、どごさ行った」などと言います。「お前のおっか、はだらぎもんだずな」（おまえの奥さんは働き者だね）というように、話し相手の妻（他人の妻）に対して言うこともあります。

ただ、私自身は「おっか」「おっかあ」という言葉はそんなに聞いたことはありません。「かあちゃん」です。「かあちゃん」はよく聞きましたし、よく言いました。母親を「かあちゃん」と言いました。

今でも米沢だけでなく山形県の広い地域で、自分の妻のことを「かあちゃん」という人が多いです。ただ、「かあちゃん」という人も次第に少なくなっている感じがします。

●おつかい・・・例題です。おかあさん（かあちゃん）「おつかいさ、いってけろ」。子ども「やんだ」。この意味は「買い物に行ってこい」「いやだ」。かあちゃんは自分の子どもに買い物を頼んだのですが、子どもは断ったという場面です。これで、お駄賃でもあれば、子どもの反応は違ってくるかも・・・。（この例題は、「やんだ」でも出てきます）

「おつかい」、これは「使い」から来た言葉というのは、すぐにおわかりでしょう。「使い」とは、言い付けられて（指示されて）用事をたしに行くこと、または行く人のことです。人についてはお硬く言うと「使者」です。例題も、同じような事例です。

しかし、この事例は、その「使い」ともニュアンスが違います。事例の「おつかい」は「買い物」を指す言葉なのです。私も子どもの頃、数え切れないほど「おつかい」に行きました。

●おっかかる・・・例題です。「壁さおっかかってんなず～」。これは「壁に寄りかかるな」とい

う意味です。私もですが、立っていますと、疲れた時など、つい壁に寄りかかることがあります。でも、公な場で壁に寄りかかっていると、だらしのない感じがします。それで「壁さおっかかってんはず～」と言われてしまいます。

「おっかかる」は、「人や物に自分のからだの重みをあずける」という意味の「寄りかかる」「もたてる」にあたる言葉です。

ただ、調べますと、「おっかかる」が方言なのか、逆にわからなくなりました。まず、言えるのは、「おっかかる」は、山形以外でも広く使われている言葉であることです。しかも、それぞれで方言と紹介しています。わかった範囲で、茨城・長野・関東地方・秩父地方・新潟・群馬・津軽・秋田・埼玉県・久慈市・長岡・富山県（魚津市）などです。こうしてみますと、東北・関東・北陸地方で使われている言葉のようです。

一方で、国語辞典にも「おっかかる」が掲載されています。ということは、標準語なのでしょう。ただ、標準語なら「寄りかかる」「もたてる」という言い方になると考えることもできます。そうであれば、「おっかかる」は「寄っかかる」→「おっかかる」と訛っていった言葉、つまり方言とみることができます。

●おっかづく・・・例題です。「おまえ、あるぐな、はやいごど。やっと、おっかづいだ」。これは「お前、歩くの速いね（お前の歩き方は速いね）。ようやく追いついた」という意味です。

「おっかづく」は「追いつく」という意味です。

「おっかづく」は移動するものに対して言うだけではありません。例えば、「やっと勉強におっかづいだ」は、お休みしていたため、勉強（授業）に遅れが出たというケースで、「ようやく勉強に追いついた」という意味です。

「おっかづく」は「追いつく」を強調した言い方とも言えます。

●おっかね・・・「おっかない」がさらになまった言い方です。意味は「こわい（怖い）」「おそろしい（恐ろしい）」です。

熊に遭遇しました。断崖絶壁の上にあります。あわてて走っていたらモノにぶつかりそうになりました。オヤジにきつい顔で激しく怒られました。地震で大きな揺れに見舞われました。人通りもない真っ暗な道をひとりで歩いています・・・「おっかね」になります。人によっては、東京スカイツリーの展望台でも「おっかね」になります。

そもそも「おっかない」自体、標準語ではないと思われます。しかし、「おっかない」は辞書にも掲載されているほどですので、このコーナーで（方言として）ご紹介すべきか、迷いました。それでも「おっかね」という言い方がありますので、取り上げました。

「おっかない」を東京の方言と紹介しているものもあれば、「広く全国的に使われている」と紹介している人もいます。一方で、関西からは「使わない」と紹介している人もいれば、「おっかない」は「おどけている感じで言う時に使う」と紹介している人もいます。

●おっつける・・・標準語では「押し付ける」となりますが、「おっつける」は全国で使われている言葉であると思われます。それでも米沢でも使われていますので取り上げます。

「おっつける」には、いろいろな意味があります。

「顔を壁におっつける」は「顔を壁に押し付ける」です。

「おもちゃ、じゃまだがら、おっつけんぞ」は「おもちゃ（がここにあると）じゃまなので、（部屋の隅に）押し付けるよ」という意味です。これは「片付ける」というより「（脇）に退（ど）かす」というニュアンスです。

「おっつけ細工」という言葉があります。仕事などで、見た目上はきちんとしたように見えて、実は「いい加減」あるいは「手抜き」しているやり方・方法のことです。その人の性格や、時間がないために、してしまうことです。「とりあえず」「暫定」という意味で行った仕事、という意味もあります。

「責任をおっつける」という言い方もあります。

●おっぱがす・・・例題です。「後ろの車におっぱがさっちゃ～！」。これは「後ろの車に追い越されました」という意味です。

「おっぱがす」は「追い越す」という意味です。

無理な「おっぱがし」（追い越し）は危険です。

●おどがえ・・・意味は「あご」です。

例題です。「おどがえさ、まんまつぶ、くつつえったず～」は「（お前の）あごにご飯粒が付いているよ」という意味です。

「あご」と言っても、厳密には「下あご」のことです。口の下から首までの部分、横は耳の付け根の部分までです。

辞書を調べますと、「おとがい」という言葉が「下あご」という意味で掲載されています。ということは、「おどがえ」は「おとがい」が訛った言い方と思われる。

●おどげでない・おどげでね～・・・例題です。「こがえに降って、おどげでない（おどげでね～）」。これは、大雪・豪雪に対して「こんなに降って、大変だ（大変なことになった）」という意味です。

「おどげでない・おどげでね～」の「おどげ」とは何でしょう。「普通」から「普通の範囲」「正常な範囲」「許容できる範囲」という意味まで広がります。

それで、「おどげでない・おどげでね～」とは「普通ではない」から「普通の範囲ではない」「正常な範囲ではない」「許容できる範囲ではない」という意味になります。そこからさらに「大変だ」「大変なことだ」「大変なことになった」「えらいことだ（えらいことになった）」「とんでもないことだ（とんでもないことになった）」という意味にまで広がります。

平成18年豪雪に迫るといって2011年12月～2012年2月の豪雪は、まさに「おどげでない」のであります。私も雪かきや雪下ろしをする際、「おどげでない」を何度つぶやいたことか。

●おどしとり・・・「年越し」のことです。米沢では・・・少なくとも私は、正月のおせち料理より、おどしとりのごつつおー（年越しのごちそう）の方が印象に残っています。というより、おせち料理はテレビで知った言葉で、東京あたりの方の正月の風習と思ったものでした。

大晦日は、母が午前中からおどしとりのごつつおー作りに励んでいました。その間、父はいさばや（魚屋）に行って、鯉を買ってきました。鯉はいさばやでさばいたのか、家でさばいたのか、



記憶は曖昧になってしまいましたが、甘煮にしたのは家です。お醤油と砂糖とお酒を入れて、時間をかけてじっくり煮込みます。

そのほか、たくさんの料理を作りました。兄姉も作りました。みんなで、作った料理を飯台（テーブル・食卓）に並べます。そして、いただきます。このように、「おどしとり」は一大行事だったのです。

今でも、米沢の大晦日は「おどしとり」です。正月は「おどしとり」の延長のようなものです。

年越しそばの風習もテレビで初めて知ったことで、これも東京あたりの風習だと思っていました。

●おばんです・・・「こんばんは」という意味です。他人の家を訪問しての挨拶、道で出会ったの挨拶、電話での挨拶、メールでの挨拶など、とにかく夜になると「おばんです」。

中には「おばんかた」という人もいます。

私も「おばんです」と挨拶されても、特に違和感はありません。ところが、自分から「おばんです」とは、ほとんど言いません。なぜなのか、自分でもよくわかりません。とにかく、自分から「おばんです」と言うことには、なんとなく抵抗感があります。

これが方言です。理屈・理論ではありません。

●おばんちゃ・・・例題です。「おばんちゃ、元気にしったが」。これは「おばあちゃん、元気になっていますか」という意味です。

「おばんちゃ」は「おばあちゃん」という意味です。しかし、同じ「おばんちゃ」でも、厳密に見ていきますと、人によって意味が違います。これが方言のおもしろさです。

1つ目の意味は「曾祖母」です。つまり「ひいおばあちゃん」のことです。「おばんちゃ」とは「曾祖母」だけを指す、という意味です。

2つ目の意味は「祖母」も含める意味です。いわゆる「おばあちゃん」という意味です。

3つ目の意味は、血縁関係の「曾祖母」「祖母」にこだわらず、広くご高齢の女性を指す、という意味です。この場合、駄菓子屋のおばあちゃんも「おばんちゃ」になります。

それで、エピソードがあります。シンガーソングライターのゆき彦さんは“だがしや楽校”のCDで、山形弁バージョンによる“駄菓子屋のおばあちゃん”を歌っています。それを聴いたある人が「山形弁なら『おばあちゃん』でないべ。『おばんちゃ』だべ」と言っていたのです。

私の子どもの頃の「おばんちゃ」のイメージは「ドッシリとしたおばあちゃん」です。

●おぼげる・・・意味は「おぼれる（溺れる）」です。「おぼげんなよ」は「溺れるなよ」という意味です。私にとっては、なんとなく記憶にある言葉ですので、ここに取り上げましたが、話したり聞いたりした記憶は、ほとんどありません。溺れる場面、あるいは溺れることにつながるような場面に遭遇しなかったからかもしれません。

●おぼご・・・「子ども」という意味です。例えば「おまえんごのおぼご、めんごいずな～」は「お前の（家にいる）子ども、かわいいな～」という意味です。

こんな例もあります。「おまえ、まだそがなごどしてんなが。おぼごだずな～」。これは「お前、

またそんなことしているのか。子どもだな～」という意味です。これは、年齢相応のことをしていないことに対しての言い方です。つまり、「早く成長しろ」「大人になれ」という意味が含まれています。

この言い方、私は抵抗感があります。「成長していない＝子ども」ではないからです。

●おぼごなし・・・「おぼご」は「子ども」で、「なし」は「成し」です。それで、子どもができたこと、つまり「お産」の意味です。「あそごの嫁っこ、おぼごなしたど」は「あの家のお嫁さん、お産したそうです（子ども生んだそうです）」という意味です。

●おまえよ～・・・これだけでは方言とは言わないです。意味の説明は必要ないでしょう。

問題は2つあります。1つは「おまえ」という言い方です。「おまえ」は、よほど親しい人、目下の人などに対して使う言葉です。あるいは、叱ったりする時も使うことがあります。これに対して、米沢ではごく普通に「おまえ」と言います。

もう1つは「・・・よ～」です。米沢では語尾に「よ～」を付けて言う人が多いです。

※「おまえよ～」「おまえ」「・・・よ～」については、福島からの人に指摘されて、私も初めて気付いたことです。その福島からは、米沢に来られた当初「おまえ」や「・・・よ～」を聞いた時、きつい言い方と感じ、引いてしまったそうです。「しょうしな」に代表される米沢の方言や言い方については「やさしい」とか「奥深い」などと言いますが、「本当にそうなのか」という疑問があっただけに、私は「なるほど」と思ったのであります。

●おまんま・・・意味は「ご飯」です。例題です。「おまんま、くえ」は「ご飯、食べなさい」という意味です。

「おまんま」は「ご飯」と同じで、米の「ご飯」のみを意味することもあれば、おかずも含めた意味の場合もあります。ですから、例題の「おまんま、くえ」（ご飯、食べなさい）は、「おかずだけでなく、ご飯も食べなさい」という意味の場合もあれば、「食事しなさい」という意味の場合もあります。

●おもしろい・・・「おもしろい」という意味です。いくつか例題です。

「あの映画、おもしろいが」「おもしろいよ」。これは「あの映画、おもしろいですか？」「おもしろいよ」という意味です。

「あの映画、おもしろかったが」「おもしろかった」。これは「あの映画、おもしろかったですか？」「おもしろかったよ」という意味です。

「おまえの話、おもしろかったごど」は「おまえの話、おもしろかったよ」という意味です。

「あそご、なんにもあそぶものなくて、おもしろくないね」は「あそこは、何も遊ぶものが無く、おもしろくないです」という意味です。

「あの映画、おもしろくないかった」は「あの映画は、おもしろくなかった」という意味です。

●おもだい・・・おわかりかと思いますが、「おもたい（重たい）」がなまったもので、「重い」という意味です。ただ、なまっただけでなく、「重たい」を強調するために「おもだい」という言い

方になったとも考えられます。

だいたい「おもだいごと」と重そうに言います。うしろに「ごと」を付けますので「おもたいごと」では締まりませんので「おもだい」になったとも考えられます。

「おもだい」は重量が「重い」で言う言葉です。

「重い」には「重い口調」とか「頭が重い」という言い方がありますが、「おもだい口調」とは言いません。それから「頭がおもだいなよ」という言い方を聞いた記憶もありますが、あまり言わない言い方です。

●おやす・・・例題です。「しごと、はやぐ、おやせ」は「仕事、早く終わらせなさい」つまり「仕事、早くしなさい」という意味です。

「おやす」は「終わらせる」という意味です。

例えば、「宿題、はやぐおやして、あそぶべ」は「宿題、早く終わらせて、遊ぼう」という意味です。「掃除、おやしたが？」は「掃除、終わらせたか（終わったか）」という意味です。

「おやすじゃ」は「(早く)終わらせるようにしよう」という意味です。

「おやせよ」は「(早く)終わらせなさいよ」という意味です。

●おらえの・・・例題です。「このカバン、だれんなだ」「おらえのだ」。これは「このカバンは誰の(もの)ですか?」「私の(カバン)です」という意味です。

「おらえの」とは「私の(もの)」「自分の(もの)」という意味です。

おそらく「オレのもの」がなまって変形して「おらえの」となったと考えられます。

「おらえの」だけで「私の(もの)」という意味ですので、「おらえのもの」という言い方はしません。

私自身、昔は言ったような気はしますが、今では「オレんなだ」と言い、「おらえの」とは言わなくなりました。

●おらだ・・・「私たち」「俺たち」「自分たち」という意味です。

「おれだ」は「私だ」という「自分ひとり」を指す言葉ですが、「おらだ」は「私たち」というように複数になります。

「おらだの部落では・・・」とか「おらだは、ちちゃこいどきには、おでらであそんだもんだ」(俺たちは、小さい時には、お寺で遊んだものでした)という言い方をします。

長井市のコミュニティ放送は“おらんだラジオ”と言います。この「おらんだ」も「おらだ」と同じ意味です。ただ私は「おらんだ」とはあまり言いませんでした。

●おらほ・・・例題です。「中華そばのうまいどこは?」「おらほにある」。これは「中華そば(米沢ラーメン)の美味しい店は、どこにありますか?」「自分が住んでいるところにあります」という意味です。

「おらほ」とは「オレの方」、つまり「自分が住んでいるところ」という意味で、さらに詳しく説明しますと、例えば「自分が住んでいる地域」「自分が住んでいる町内」といった意味です。

米沢の人が「おらほさ住め」と言いますと、(米沢は良いところだから)「米沢に住んだら」と

勧める意味になります。

●おらんどご・・・いくつか例題を示します。

「おらんどごは、みな早起きだよ・・・」。これは「私の家では、家族みんな早起きで・・・」という意味です。

「おらんどごさ、となりのネコ来て、わがんね」。これは「私の家に、となりのネコが（頻繁に）来て、困ったものだ」という意味です。

「おらんどご、ゆっちゃよ」。これは、地震によって「私の家（場所）では、揺れました（揺れたよ）」という意味です。

このように「おらんどご」とは「私の家」「自分の家」という意味ですが、自分の家庭を指す場合や、自分が住んでいる家・場所・地点を指す場合があります。

この「おらんどご」、私は今でも使う言葉です。

●おわえなえ・・・米沢弁を代表する言葉（方言）のひとつで、「召し上がってください」「お食べください」「あがってください」「おあがりください」という意味です。

「おわえなえ」はお客様に対する言葉という感じですが、だから、家族や親しい人同士に対して「おわえなえ」とは言いません。

私が子どもの頃、周りで「おわえなえ」という言葉はあまり聞いたことがありません。私の感覚では「おわえなえ」は上品な感じですが。

●おんつあま・・・意味は「叔父さん・伯父さん」です。「おんつあま」は親戚関係にある「叔父さん・伯父さん」を指す言葉であり、親戚関係にない「おじさん」の意味はありません。

私が子どもの頃は、親戚のおじさんと言いますと、なんだか偉い感じがして「おんつあま」でした。つまり、正確には「叔父さん・伯父さん」ではなく「叔父様・伯父様」です。「つあま」は「様」がなまったものです。

●おんまるめる・・・「丸める」の頭に「おん」を付け、「丸める」を強調した言い方です。意味は「丸める」「丸くする」です。

例えば、あまりにも紙くずが散らかっていると、「おんまるめで、なげろ（ず）！」と言われてしまいます。「なげろ」は「（ゴミ箱に）捨てなさい」の意味です。

ただし、「おんまるめる」は「（紙などを）丸める」だけの意味ではありません。「（話を）丸める」の意味もあります。それも、みんなの意見を集約して（まとめた上で）話を丸めるという意味もありますが、それより、ある人（例えば長老と言われる人です）が「一方的に」「独断で」あるいは「強引に」話を「丸める」という意味が強いのです。そこで思うのが「おんまるめらっちゃ！」です。だから、わざわざ頭に「おん」を付けたのです。

●かえちゃ・・・例題です。「ズボン、かえちゃに、はいったでら！」。これは、2つの意味があります。1つは「ズボン、裏返しに、はいているよ」という意味です。もう1つは「ズボン、左右反対に、はいているよ」という意味です。

このように、「かえちゃ」とは、着物やズボン・靴下などを、「裏返し」あるいは「左右反対」に着たり、はいたりしていることを言います。

ただ、調べてみますと、「裏返し」は説明されていますが、「左右反対」と説明しているものは、ほとんどありません。でも、私の周りでは「左右反対」でも「かえちゃ」と言いました。

●がおる・・・例題です。「いや～、あがえに走らさっちえ、がおったず～」。これは「いや～、あれだけ走らされたので、疲れたよ～！」という意味です。しかし、これは単に「疲れた」という意味だけではありません。例題では「あがえに走らさっちえ」となって「がおった」のです。つまり、自分が考えていた以上に「走らされた」ので、「参った」とか「もう勘弁してほしい」とか、さらには「やる気をなくした」という意味まで含まれます。場合によっては「なぜ、あんなに走らなければならないの」という不満の気持ちも含まれます。

例えば、「あなたは病気です」と診断されて、「がおった」と言う場合もあります。これは、精神的に落ち込んでの「だおった」のです。

このように、「がおる」とは基本的には「疲れる」「弱る」「元気・気力がなくなる」という意味ですが、「予想外に」あるいは「突然に」、さらには「思い通りにならないで精神的にダメージを受けた」という意味合いが含まれることもあります。

●かが・・・例題です。「おらいのかが、きてねが」。これは「私の妻、(こちらに)来ていませんか」という意味です。

つまり、「かが」とは、「(自分の)妻」のことです。ダンナさん、自分の奥さんのことを「かあちゃん」「かかあ」と言う人がおりますが、「かが」はさらに訛った言葉と思われれます。

●かく・・・トランプの「ダイヤ：♦」のことです。

●がさばる・・・「かさばる」の訛った言い方です。つまり、体積が大きい「場所をとる・ふさぐ」「空間(スペース)をとる・ふさぐ」という意味です。

例題です。子どもがこれから旅行に出掛けます。必要な荷物をバッグに入れます。ところが、ゲームものをたくさん入れたため、バッグがパンパンに膨れ上がってしまいました。そこで親から出たセリフは「そがえにがさばっこんじゃ、たがってぐな」。これは「そんなにかさばるのなら、(ゲームものは)持っていくな」という意味です。

「がさばる」と言われるものとは、重さの割には場所や空間をふさいでしまうもの、必需品ではないのに意外に場所や空間をふさいでしまうもの、などです。

例題のように、荷物で「がさばる」ということが多いですが、家の中でもがさばっているものがありそうです。

●かしゃばば・・・子どもの私、この言葉の意味がよくわかりませんでした。それで何となく「軽いおばちゃん」「どこか飛んでいるおばちゃん」と思っていました。そして、軽蔑した言葉ではないか、と感じていました。正直、今でも正確な意味はわかりません。

そこで調べてみますと、意外にも辞書に載っていたのです。

かしゃばば [くわ-] 【火車▽婆】 [補説] 死後は「火車」に乗せられる婆の意。悪心（あくしん）の強い老婆。おにばば。かしゃ。（大辞林 提供：三省堂）

さらに調べますと、私の周囲では「気の強いばばちゃ」という意味で使われていたようです。よく地域には“名物おばあちゃん”がおりました。それは、良い意味でも、悪い意味でも、です。その内、悪い意味では、絶対に自分の考えを曲げないため、周囲から敬遠されてしまった人、という感じになります。

「かしゃばば」という言葉が存在したということは、一概に田舎は人情が厚く、互いに助け合って生活している、とは言えない側面があることを示しているように感じます。

●がせない・・・いつも肝心な時に体調を崩してしまい、みんなに迷惑をかけること、またはその人のことを指す言葉が「がせない」です。「体調を崩す」ことは本人も望まないことであり、やむを得ないことなのですが、世の中には、明らかに体調管理が悪くて頻繁に体調を崩す人がいます。それも肝心な時に体調を崩すことが多いとなれば、みんなから「がせないずな～」というセリフと共に嘆かれるわけです。

●かせる・・・「くわせる」がなまった言い方で、「食べさせる」という意味です。動物（ペットや家畜）に「食べさせる」という意味で使うこともあります。

「昼、留守にすっから、うちのおぼこさ、ご飯、かせでけんべ」は「昼、留守にしますので、私の子どもに、ご飯、食べさせてください」という意味です。

●かたびっこ・・・例題です。子どもが母親に言います。「かあちゃん、この靴下、かたびっこだず～」。どうやら、おかあさん、洗濯後、右足と左足の靴下、違うもので1組にしてしまったようです。このように、対であるべきものについて、違うもので対になった状態を「かたびっこ」と言います。大人数の家族ですと、おかあさんも間違ってしまうます。

世の中では、こんな人も・・・。大人数が集まる宴会。座敷でワイワイと楽しく飲んで、いざ帰ろうという時、「誰だ！靴、かたびっこに履いでいったな～！」・・・他人の靴を間違えるのはよく聞きますが、かたびっこに靴を履いたらわかりそうなものですが、稀にいるんです。こういう人が・・・。

●かたらし・・・「かたびっこ」と同じ意味です。特に、靴下ではよく言います。ですから・・・例題です。子どもが母親に言います。「かあちゃん、この靴下、かたらしだず～」。・・・となるのです。

●かたぴた・・・「かさぶた」のことです。

私は「かたぴた」と言ってきましたが、「かだぴた」あるいは「かだびた」という人もいます。米沢弁では濁って言うことが多いので、「かたぴた」がめずらしいのかもしれませんが、私は「かたぴた」です。

「かたぴた」という良い方は、米沢だけでなく、東北や北海道など広く使われている言葉、と説明しているものもあります。

「かたぴた」は自然にはがれるのであれば良いのですが、何かとぶつかってはがれたり、ついひっかいたりしてはがれたりして、また血がにじんでしまうことがあります。そんな悲しい経験は今でもします。

●かっちゃ・・・例題です。「みな、かっちゃが」「かっちゃず」。これは「全部（残さず）食べられたか」「食べた」という意味です。

「かっちゃ」とは「食べた」という意味ですが、「食べることができた」「食べられた」というニュアンスがあります。例題では、「好き嫌いせず、みんな食べたか」という意味が含まれているわけです。

ほかの例題としては、たくさんの料理が出された時に「全部食べることができた」という意味の「かっちゃ」、食べ慣れないものを食べることができた時の「かっちゃ」などがあります。

「かっちゃ」は子どもがよく言いますが、大人でも言います。

●かっちゃ・・・例題です。「蚊にかっちゃ!」。これは「蚊に刺された」という意味です。

「かっちゃ」とは「食べられた」「食われた」という意味です。直接的には「刺された」という意味ではありません。でも、蚊や虫に「刺された」ことを「食われた」「食わっちゃ」という言い方をします。だから「かっちゃ」は（蚊や虫などに）「刺された」という意味になるのです。

●かっちゃぐ（かっつあぐ）・・・蚊や虫に刺されると、痒（かゆ）くなります。痒（かゆ）いところは、どうしても搔（か）いてしまいます。「かっちゃぐ」とは「搔く」という意味です。それも、必要以上に搔きすぎて、皮膚が赤くなったり、腫れたりした場合は「かっちゃいだ」と言います。

ここから転じて、「かっちゃぐ」には、整理整頓されていたものを「触れる」ことでゴチャゴチャにするという意味にもなります。例えば・・・外出から戻り、事務所に入りますと、泥棒によって荒らされていました。こんな時に発するセリフは「かっつあがっちゃ!」。

●がってしね・・・例題です。「あいづは、なんべんごしゃがっちえも、がってしねず」。これは「あいつ（あの人）は、何回も叱られても、平気だ」という意味です。

「がってしね」とは、普通の人なら精神的にダメージがあるはずなのに、「気にしない」「平気」「気丈」であることを意味します。どちらかと言うと、肉体的ではなく精神的な場合に言います。

例題では、何回も叱られても改善しないことから、「大したものだ」という意味合いの「がってしね」ではなく、「困ったものだ」というニュアンスの「がってしね」が強いと思われます。

「あいづは、なにゆわっちえも、がってしねやづだ」（あいつは、何を言われても、平気な人だ）での「がってしね」は、「大したものだ」という意味合いもありますが、「少々あきれる」「自分にはマネできない」というようなニュアンスも陰に隠れているかもしれません。

精神的に強いのにこしたことはないのですが、あまりに「がってしね」人になりますと、コミュニケーションにも影響が出てくるかもしれません。いかがでしょうか？

なお、「オレは、がってしねよ」と、自分に対して言う場合もありますが、どちらかと言うと、他人に対して言う場合が多いと思います。

●かなこおり・・・「つらら」のことです。

子どもの頃、大きな「かなこおり」を見つけますと、チャンバラごっこをした記憶があります。それにしても、「つらら」なんていう言葉は、テレビかなんかで初めて聞いた言葉です。「かなこおり」が標準語だと思っていました。

それで、念のため辞書を調べたところ

・かなこおり [-こほり]【金氷】 非常に冷たいこと。また、冷たくて氷のような感じがするもの。[大辞林 提供：三省堂]

となっていました。ということは、「つらら」を意味する「かなこおり」は、やっぱり方言なのでしょう。

●かなしい・・・例題です。「きょうは寒くて、かなしいな〜」。これは「きょうは寒くて、つらいな〜」という意味です。もうひとつ例題です。「そがえにあんなが！かなしいな〜」。これは「そんなにあるのか！相当（な量）だな〜」という意味です。

このように、この場合の「かなしい」は「悲しい」ではありません。「つらい」という意味と「相当」という意味です。この「相当」も辛さにつながる「相当」です。だから、良いことが「相当」ある場合では「かなしい」とは言いません。

●かぶだれ・・・私自身はほとんど言ったり聞いたりしたことがない言葉ですが、米沢・置賜地方を代表する方言のひとつだそうです。それで、ここでもご紹介することにします。なお、宮城県の一部の地域でも使われている言葉であるという情報もあります。

代表的な方言にしては、説明がまちまちです。

「つまづく」「つまずいて転ぶ」ことを「かぶだれ」と説明しているものもありますが、これだけでは「かぶだれ」とは言いません。大事なのは、どこで、つまずいたり、つまずいて転んだりしたか、であります。

本来「かぶだれ」とは、つまずいたり、つまずいて転んだりすることで、ビショ濡れになることを言うのです。それも衣服を着ている状態でビショ濡れになることを言います。だから、つまずいたり、つまずいて転んだりした場所は、水たまり、田んぼ（水田）、川など水がある所です。

また、言い方としては「かぶだれ、くらった」と言います。

元気に遊んでいた子どもが、突然「かぶだれ、くらった〜！」と泣きながら言う場面はよくあります。

●かぶづく・・・「かぶつく」がなまった言葉です・・・と説明しようと思ったのですが、「かぶつく」を調べても標準語として出ておらず「かぶつく」自体が方言かはわかりませんが、少なくともマイナーな言葉であることがわかりました。

例えば、リンゴを丸かじりする時に「かぶづく」と言います。親が子どもに「かぶづいでくえ」という場面がよくありますが、これは「そのまま丸かじりして食べろ」という意味です。リンゴ



だけでなく、梨や柿もかぶづいで食べることがあります。

「かぶづぐ」には、もうひとつ意味があります。例題です。子どもが泣きながら「犬にかぶづがっちゃ！」と言っています。これは「犬に噛み付かれた！」という意味です。このように動物が噛み付く時も「かぶづぐ」と言います。

●がぼっと・・・例題です。「がぼっとくえ」。これは「いっぱい食べろ」という意味です。それも「少しずつ食べないで、(一度に)いっぱい食べろ」という意味です。

「がぼっと」とは「いっぱい」「たくさん」つまり「量を多く」という意味です。それも「一度にいっぱい」「一度にたくさん」という意味です。ですから、最終的に、あるいは合計として「量がたくさん(いっぱい)」になっても「がぼっと」とは言いません。

イベントなどでよくある「お菓子のつかみ取り」では「がぼっと」と取ります。でも、食事で「がぼっと」と食べることはお勧めできません。

●かま～ず・・・私はほぼ毎日、松が岬公園の写真撮影してはホームページに掲載しています。そこで私が言うセリフは「かま～ず写真撮りしったず」です。これは「いつも写真撮りしているんだよ」という意味です。

「かま～ず」は「いつも」という意味ですが、さらに分析しますと、私の写真撮影は、誰かからの依頼・指示・要請などがあって行っているのではなく、私自身の思い・考え・意思で行っているものです。

依頼・指示・要請などがあっても、その後自発的に継続していた場合も「かま～ず」と言います。例えば「公園の花さ水やってだが」「かま～ず、しったず」は「(今でも)公園の花に水をやっていますか」「(言われなくても)ず～っと水をやっているよ」という意味合いです。

「かま～ず」では、こんな例もあります。「おまえ、あそご、とおってんなが?」「ほだ、かま～ず、とおってんず」「だめだず、あそごは、Aさんのどごろだがら」。これは「おまえ、あの場所を通っているのか」「そうです。いつも、通っています」「だめだよ。あの場所は、Aさんの敷地だから」という意味です。これは、近道するために、いつも通っていた場所が、実はAさんの敷地内、という例題です。

この場合、本人に悪気はありませんが、よく確認しないで、近道のために、他人の敷地内を通っていたこととなります。この場合の「かま～ず」には「構わないで・・・」という意味合いが含まれます。

このように、「かま～ず」は「いつも」ですが、裏に「構わないで・・・」という意味合いが含まれていることはよくあります。

●かまね・・・例題1です。「きょう、山形さ行っていいべが」「かまね」。これは「きょう、山形に行っていいでしょうか」「いいよ」という意味です。

例題2です。「時間さおぐちえしまったじゃ～。わりがったなっし」「かまね」。これは「(約束の)時間に遅れてしまいました。ごめんなさい」「気にしないよ」という意味です。

そのように「かまね」は「いいよ」「気にしない」という意味で、「承諾する」「許す」という意味で使われる言葉です。「構わない」を簡略化した言い方だと思われれます。

●かむな・・・例題です。「あいづんどごな、かむな」。これは「あいつ（あの人）のことなど、かまうな」という意味です。

「かむな」は「かまうな（構うな）」がなまった言い方で、「相手にするな」という意味でもあります。

「あつけな、かむなず」は、人間に対して「あつけな」と言うほどですから、強い調子で「あいつ（あの人）には、構う必要がない」という意味です。

「かむな」と言う背景には、例えばですが、その人から頼まれて面倒みても、面倒みた人の方ばかりが、リスクを負う可能性が高いからです。

●かむごどね・・・例題です。「あいづのいうごど、かむごどね」。これは「あいつ（あの人）のことなど、かまうことありません」という意味です。

「かむごどね」は「かまうことありません」「かまうことない」という意味ですが、さらに「気にすることありません」「気にすることない」という意味です。すなわち、気にさわることを言われても「無視しなさい」という意味でもあるのです。

●がめる・・・意味は「ごまかして、不当・不正に利益やモノを得る」ことです。例えば、500円の商品に対して、400円しか支払わないと、「100円がめた」ことになります。あるいは、500円で5個なのに、6個持ってきちゃった・・・は「1個がめてきた」ことになります。

調べますと、「がめる」とは「盗む」と説明されていますが、上記の説明のとおりで「ちょろまかす」というニュアンスです。

また、「がめる」には麻雀用語として「より大きな利を得ようと、がむしゃらになること」という意味もありますが、方言として考えますと、「がむしゃらになること」は該当しません。

●カラガイ・・・エイを干したものです。水に浸してもどし、醤油・砂糖・お酒などで、甘煮のように甘じょっぱくじっくり煮込みます。干していますので、じっくり煮込むことで、やわらかくなります。と言っても完全にやわらかくなるわけではありません。どちらかという硬いかもしれません。ですから、食べる時には、噛めば噛むほど美味しくなります。ただ、鯉に比べればあっさりした味で、煮込んでつゆに旨みをしみ込ませるか、肉につゆの味をしみ込ませるかが勝負になります。酒の肴（さかな）に合いそうです。

●がらみ・・・例題です。「うまいごごだけ、もってぐべ」「そつけなごどしてらんはず。はごがらみ、もってぐぞ」。これは「おいしいものだけ、持っていこう」「そんなことまでしてられない。箱に入っているもの、すべて持っていくよ」という意味です。

「がらみ」とは「すべて」「全部」という意味ですが、それだけではない意味があります。例題の場合、「箱も持っていく」という意味が含まれるのです。「おいしいものだけ」なら箱は持っていきません。もともと「箱をもっていく」という想定はありません。それが「箱に入っているもの全部持っていく」となれば、箱に入ったまま、つまり「箱も持っていく」となるのです。

「がらみ」とは単なる「すべて」「全部」という意味ではありません。例題の場合、「はごがら

み、もってぐぞ」というセリフだけだと、「箱もいっしょ（箱も含めて）に持っていくよ」という意味になり、そのために「中身を全部持っていくことになった」とも考えられます。

また、「がらみ」の「が」が半濁音になることもあります。例題も半濁音です。

●かるこい・・・意味は「軽い」です。

赤ちゃんを抱いて言うセリフは「かるこいごど」。自分の子どもが大きくなって重くなり、久々に赤ちゃんを抱いた時に思わず言うセリフです。

大ききの割に軽いモノを持った時も「かるこいごど」と言います。

逆に思ったより重い場合には「かるこぐない」「かるこぐね」と言います。

「かるこい」は重きの「軽い」という意味です。物事を簡単に考える人のことを「軽い」と言いますが、この場合「かるこい」とは言いません。

●かれる・・・例題です。「こいず、かれっか?」。これは「これ、食べられますか?」という意味です。

「かれる」は「食べられる」という意味です。「くわれる」がなまったというより、簡略化された言い方です。このように、簡略化によって方言になった言葉はいくつもあります。

ところで、例題の「こいず、かれっか?」には、場面によって、いろいろな意味になります。

「これは誰の食べ物ですか? 私が食べて良いですか?」という意味の場面です。

「これは食べられる状態ですか? 食べても大丈夫ですか?」という意味の場面では、この食べ物は「安全か」「食べられるものか」「きちんと調理して食べられる状態になったか」などの意味が想定されます。

「これ、嫌いではないですか? 食べられますか?」という意味の場合もあります。人間は、好き嫌いで食べられないことがあります。

「アレルギーはないですか? これ食べられますか?」という意味の場合も考えられます。

今まで食べていた人に対して「もっと食べられますか? これも食べられますか?」という意味の場合もあります。

さて、「こいず、かれっか?」に対する返事は「かれる」「かれんぞ」ですが、これまでご紹介した場面によって「食べられる」という意味も変わってきます。

「かれんべ」という返事ですと、「食べても良いだろう」という意味になりますので、断言する意味での「食べられる」ではありません。

逆に「かんに」（食べられません）という返事の場合もあります。「かんに」については、「かんに」の項を設けて説明しています。

●がながく・・・例題です。「がながく、たがっていぐぞ」。これは「みんな、持っていくよ」という意味です。例えば、あるイベントに参加するとします。参加するには、そこで使うモノとか道具が必要です。そこで、それらのモノ・道具を持っていく時に言ったセリフが例題です。

例題で言うなら、「がながく」とは「必要なモノ・道具一式」という意味です。それで「みんな」と訳しました。

ただ、これには「とりあえず必要なモノ一式」というニュアンスが含まれることがあります。

すなわち、実際に使うかは現場に行かないとわからないが「念のため持っていこう」というニュアンスです。

例題のような必然性が高くない場合でも、なんとなく「がんがく、たがっていくべ」と言うこともあります。また「がんがく、できったが」（必要なもの、そろったか？）と言うこともあります。

この「がんがく」という言葉、私は今でも思わず使うことがあります。でも、使う人は少なくなっているように思うのですが、どうなのでしょう。

それから、「がんがく」を「準備・段取り」と説明しているものがありますが、少なくとも私はこの意味で使った記憶はありません。

狭い米沢の中でも、地域によって、米沢弁がまったく違ってきます。米沢弁番付で上位にランクされている言葉の中には、私が聞いたり・しゃべったりしたことがない言葉、意味がわからない言葉も数多くあります。

●かんかんわたり・・・例題です。雪が降りました。大雪です。新たに 50cm も積もりました。積もったばかりの雪を歩きます。雪はやわらかいので、ズブズブッとぬかってしまいます。これでは、とても普通には歩けません。

その雪が日に照らされると、太陽の熱で表面はとけます。水気が多い雪になります。この状態で歩きますと、水気が多くなっただけで、やわらかいことは変わりありませんので、やはりズブズブッとぬかってしまいます。

夜、天気は晴れ。放射冷却現象が起きます。グングン冷え込んでいきます。水気が多い雪・・・その水分が凍ります。ガチガチに硬くなります。その上を歩きます。ぬかるみません。普通に歩くことができます。

このように、積もったままの雪の上を歩くことを「かんかんわたり」と言います。「かんかんわたり」ができるということは、近道ができるということです。私も出勤時「かんかんわたり」をしたことがあります。普段はぬかってしまい、歩くことができない田んぼを、一気にショートカットして、通勤時間を短縮したものです。もちろん、子どもたちも「かんかんわたり」は大好きです。

●かんくらい・・・世の中にはこんな人がいます。例えば、お寿司を食べる時、ご飯にたっぷり醤油を浸して食べる人です。醤油はご飯に浸透しやすいですので、醤油に浸したら、ご飯は真っ茶色になります。また、しょっぱく（塩辛く）なっている漬物なのに、たっぷり醤油を浸して食べる人がいます。元々しょっぱい（塩辛い）のに、さらにしょっぱくなります。

このように、極端にしょっぱく（塩辛く）して食べること、及びその人のことを「かんくらい」と言います。

●かんしえな・・・例題です。2人の子どもが遊んでいます。A君はB君が持ってきたミニカーで遊んでいます。ところがA君はミニカーを壊してしまいます。A君はB君に「かんしえな」と言います。

「かんしえな」とは「ごめんなさい」という意味です。子どもの世界では、省略して「かんしえ、かんしえ」と言うこともあります。

遊んでいる内に、ぶんなぐってしまったたり、モノを無くしてしまったりした時にも「かんしえな」と言って詫びます。

大人同士でも「かんしえな」と言いますが、親しい仲や、軽い程度の詫びで言う言葉であり、きちんと詫びなければならない時には「かんしえな」とは言いません。

●かんしょ・・・意味は「ごめん」です。これが「かんしょな」になりますと「ごめんなさい」という意味になります。

例えば、芋煮会でジュースを持って来るはずだったのに、忘れてしまった場合、忘れた人は「かんしょ」と言います。ただ、「かんしょ」では軽い感じの詫びという印象になりますので、心から詫びる場合は「かんしょな～」と語尾を伸ばす言い方をします。

●かんじる・・・「寒い」という意味ですが、特に言うのは、晴れていて、放射冷却によって、夜から朝にかけて、冷え込んだ時です。「きょうは、かんじっごど」などと言います。とにかく、まゆ毛に霧氷ができるほど、ダイヤモンドダストが飛び交うほど、冷え込んでいる状態に「かんじる」と言うのです。北海道の「しばれる」のニュアンスに近いです。

●かんずける・・・失敗の原因が本当は自分にあるのに、ほかの人・別の人のせいにするのを「かんずける」と言います。あるいは、失敗の責任がAさんにあるのに、Bさんの責任にしてしまうことを「かんずける」と言います。このように「人のせいにする」「(責任を) 転嫁する」ことを「かんずける」と言います。

●かんなんね・・・例題です。「すぎきらいゆわねで、かんなんねごで」。これは「好き嫌いは言わないで、(なんでも) 食べなければならないよ」という意味です。

「かんなんね」は、「食べたくない」と思っている人に対して、「食べなければならない」「食べなさい」という意味です。

好き嫌いは良くないですが、かと言って、無理して食べさせるのは、私としては疑問です。

●かんに・・・例題です。「はらくつつくなつたがら、かんに(じゃ)」。これは「満腹になったので、(これ以上) 食べられません」という意味です。

「かんに」は「食べられません」「食べてはいけません」という意味です。

例題です。「人参は?」「かんに」。これは「人参は(食べられますか)?」「(嫌いなので) 食べられません」という意味です。

このように、嫌いなので「かんに」という場合や、満腹で「かんに」という場合があります。

「そいず、おまえんなでないがら、かんにぞ」は「その食べ物は、あなたのもではありませんので、食べられません(食べてはいけません)」という意味です。

「ぞいず、毒キノコなんで、かんにぞ」は「それは毒キノコなので、食べられません(食べてはいけません)」という意味です。

「アレルギーがあるもんだがら、かんになよ〜」は「アレルギーがありますので、食べられないのです」という意味です。

●がんばっぺ・・・意味は「がんばろう」です。

「がんばろう」とは「自分もがんばるので、いっしょにがんばろう」という思いが込められている言葉だと思います。

方言では「がんばっぺ」という言い方もありますが、私は「がんばっぺ」で紹介します。「がんばっぺ」より「がんばっぺ」の方が、なんとなく温かみを感じ「おれもいっしょにがんばっからよ、みんなでがんばっぺ」という感じが、より出てくる気がするからです。

●かんぶっちゃ・・・例題です。「このだいごん、かんぶっちゃっでねーが」。これは「この大根、腐ったのではないか」という意味です。

みかん、饅頭など、野菜や果物、お菓子でも「かんぶっちゃ」となってしまいます。カビだらけになったお餅も「かんぶっちゃ」と言います。

●かんまがす・・・例題です。「お風呂、かんまがしてけろ」。これは「お風呂、かきまぜてくれ」という意味です。

「かんまがす」は「かきまぜる」「かきまわす」という意味です。

だいたいはお風呂のお湯をかきまぜる時に使う言葉です。お風呂のお湯を沸かしますと、上だけ熱くなりますので、「かんまがす」ことになるわけです。

でも、私などは料理でも使っていた記憶があります。それも大鍋で作った料理です。

例えば、秋の山形の名物・芋煮会の芋煮。盛り付けする時には、食材の偏りをなくするため、少し「かんまがして」から盛り付けます。

なお、「かんまがす」は仙台など広く東北地方で使われている言葉のようです。ひょっとすると東北地方以外でも使われているかもしれません。

●ぎ〜・・・例題です。小さな子ども（幼児）が遊んでいます。子どもはビンのフタを取ろうとしています。でも、きついので子どもの力ではなかなか取れません。でも、子どもはフタを取りたいです。子どもは精一杯の力を振り絞ってフタを取ろうとします。その時、つまり子どもが力を出している時に、周りの大人が子どもに対して言うのが「ぎ〜」です。あるいは、大人も子どもといっしょにフタを取ろうとする時も「ぎ〜」と言います。それがわかった子どもは、自分だけで力を出す時にも「ぎ〜」と言うようになります。

「ぎ〜」は、子ども（幼児）が力を出している状態を表現した言葉です。つまり、子ども（幼児）にとっては、「ぎ〜」とは、自分が今、力を出していることがわかる言葉です。

「ぎ〜」は、まだ幼児語しか言えない子どもに対して使う言葉で、言葉がわかってきた子どもには使いません。

●ぎ〜する・・・まだ幼児語しか言えない子どもが、「これから力を出すよ」という意思を表す言葉です。あるいは、周りの大人が子ども（幼児）に対して、「自分も力を出す（手伝う）ので、力

を出そう」という意思を表す言葉です。「する」と言いますが、これから「しよう」という意味の言葉です。「ぎ～する」は標準語に近い言い方です。さらに訛ると・・・

●ぎ～すんぞ・ぎ～すんべ・・・周りの大人が子ども（幼児）に対して、「自分も力を出す（手伝う）ので、力を出そう」という意思を表す言葉です。

●きかない・きかね・・・例題です。2009年5月3日の“米沢上杉まつり”。NHKの大河ドラマ“天地人”が放送されていることや、高速道路料金がETCを搭載していると、土・日・祝日は1,000円以下になったこともあり、この日行われました“上杉行列”と“川中島合戦”には、主催者発表で10万人の人出があったとのこと。これは昨年より2万人多いそうです。

この「10万人」という数字、昨年の人出が8万人だったとしますと、実際に“上杉行列”と“川中島合戦”を現場で取材した私は「10万人では、きけねべ～」あるいは「10万人より、きかないべ～」と思いました。

この意味はいずれも「10万人より多いだろう」という意味です。さらに、そこには「10万人という数字は少なく見積もりすぎ。明らかにもっと多いはずだ」という10万人と発表したことへの不満の意味も含まれています。ただ、これは私の目算であり、断言できませんので「きけねべ～」とか「きかないべ～」と言ったのです。だから「多いだろう」と訳しました。

これが断言する表現になりますと「きかない!」「きかね!」という言い方になります。これも示された数字に対して、「そうではない」という意味を込めて言っています。

こんな言い方もあります。「米沢から山形まで、50kmではきかねべ～」。これは距離に対する言い方です。「米沢から山形まで、50kmより遠いでしょう」という意味です。これも示された50kmという数字に反応した言い方です。なお、実際の米沢・山形の距離は、山形市街地の南側ですと50km未満ですが、ビッグウイングなどがある北側ですと、50kmよりきかなくなります。

●きかない・・・これは人に対する形容の言葉で「気が強い」という意味です。そして、どちらかと言いますと、子ども、女性、おばあちゃんに対して言うことが多いと思います。私自身、「きかないオヤジだ」とはあまり聞いたことがありません。

この「きかない」には、単に「気が強い」というだけでなく、「頑固」「おっかない（こわい）」というニュアンスも含まれます。

逆に標準語からみてみましょう。標準語の「きかない」。例題です。おかあさんが子どもに言います。「勉強しなさい」と。でも、子どもは遊んでいます。そこでおかあさんは「言うことをきかない」となります。これは「勉強しなさい」というおかあさんの指示に子どもは「従わない」ことを指しています。このように標準語の「きかない」は、言うことに「従わない」という意味ですが、米沢（山形も同じだと思います）では、「気が強い」というその人の性格に対する言葉となります。

ほかに標準語の「きかない」には、例えば「薬が効かない」というような「効果がない」という意味もあります。

●きしゃい・・・「嫌い」という意味です。

「ニンジン、きしゃい」「あいづ、きしゃい」のように、食べ物に対しての「嫌い」、人に対しての「嫌い」など、「嫌い」全般に使います。「きらい」がなまった言い方です。

●ぎっきど・・・例題です。ただし良い例題ではありません。あらかじめおことわりしておきます。毎年5月3日は、米沢市内の松川（最上川）河川敷で、“米沢上杉まつり”のハイライト・川中島合戦が行われます。川中島合戦には大勢の観衆が集まりますので、後から会場に来ても、人の影になってなかなか見えません。しかし、どうしても前に言って見たいです。そこで言うセリフが「ぎっきど、はいんべ」。これは「無理してでも前に入ろう」という意味を込めた言い方です。（もちろん無理矢理入ろうとするのはマナー違反です）

もうひとつ例題です。スポーツ練習の場面です。「ぎっきど、はしれず」。これは「もっと早く走れ」という意味を込めた言い方です。

「ぎっきど」は、「もっと」とか「無理矢理」という意味・ニュアンスを持った言葉です。

「ぎっきど、はしれ」は「もっと早く走れ」という意味であることから、「ぎっきど」を「もっと力を入れて」とか「しっかりと」「強く」という意味で紹介しているものがあります。しかし、私などは、先にご紹介した「ぎっきど、はいんべ」というように「無理矢理」という意味合いの言葉として、身に染みついております。

よく言われるのが「ぎっきど、しろず」です。これは、事情なんかどうでも良いから「とにかくしなさい」という意味であり、「ぎっきど、しろず」と言った人は、自分の都合だけで（例えば、早く遊びたいので）このセリフを言っている、というニュアンスです。

先にご紹介したように、「ぎっきど」を「しっかりと」「強く」という意味で紹介しているものがありますが、「ぎっきど」は直接的には「もっと」という意味であり、「しっかりと」「強く」は「もっと」に付随する意味です。「ぎっきど」は、その「もっと」をさらに強調した言い方とも考えられ、それで「無理矢理」という意味合いにもなったと考えられます。

●ぎっちょ・・・まず申し上げたいのは、「ぎっちょ」は方言ではないことです。ところが、米沢の方言として紹介しているものが見られます。もっとも米沢だけではなく、日本各地で方言扱いにされているのが「ぎっちょ」です。

従いまして、ここでは「米沢でしゃべらっちえきた言葉」としてご紹介します。言い換えますと、米沢でも使われてきた言葉なのです。

「ぎっちょ」は「左利き」を指す言葉です。しかし、単純に「左利き」を指す言葉でないから、問題になるのです。

そもそも「左利き」をいまだに「障害」（ここでは「障がい」ではなく「障害」と書きます）あるいは「特別なこと」と思っている人が多々おります。その証拠に、今でも「山口さんは左利きな」と言われます。左利きなのに右利きに矯正した人もおります。

「ぎっちょ」は「障害」「特別なこと」という思いが込められているから問題なのです。差別的言葉と言う人がいるほどです。

ご丁寧に「左ぎっちょ」と言う人までおります。「ぎっちょ」だけで「左利き」の意味なのに、その前に「左」を付けたら、どうなるのでしょうか。



●ぎっつい・・・例題です。玄関の扉を開こうとします。なかなか開きません。さらに力を入れて開こうとします。しかし、開きません。そこで言うセリフは「ぎっついごど！」。

「ぎっつい」は「きつい」という意味です。

「ぎっつい」は例題のような扉やドア・戸などで「きつい」時に言うセリフです。

ビンのフタがなかなか開かない時にも「ぎっつはずな〜！」などと言います。

ファスナーがなかなか開かない時も「こいず、ぎっつはず」（このファスナー・きついよ）などと言います。

開く時だけでなく、扉やドアなどを閉める時や、ビンのフタを閉める時などでも、なかなか「閉まらない」「閉められない」「閉じられない」時には「ぎっつい」と言います。

サビたりしますと、「ぎっつぐ」なります。「ぎっつぐなった」と言う人もいます。

同じように「ぎっづい」と言う人もいます。

●きておごやう・・・例題です。「とがいどっから、ばっちゃ、きておごやったず〜」。これは「遠いところから、おばあちゃん、来てくれたよ」という意味です。

「きておごやう」とは「来てくれる」「来ていただく」という意味です。そこには「わざわざ来てくれる」「わざわざ来ていただく」という意味が込められています。

●きどい・・・例題です。「この山ウド（やまうど）、きどいごど」。

「きどい」とは「アクが強い」という意味です。だいたい、食べ物、特に山菜を食べた時に「きどいごど」と言います。「きどい」という味・食感は、「クセがある」「刺さるような味」という感じでしょうか。山菜の持つ独特の風味を指して言います。

それが転じて、人間に対しても「きどい」を言う場合があります。その人は、よほど「アクの強い」人なのではないでしょうか。

●きどごろね・・・「服を着たまま寝る」ことを言います。

例題です。夜こたつに入っています。気持ち良くなってそのまま寝てしまいます。これが「きどごろね」です。

「きどごろね」には「寝間着になって布団に入って寝る」ことに対比する意味があります。ですから、例題の場合、こたつに入ったまま「きどごろね」するのは気持ち良いのですが、風邪を引きやすくなりますので、「着替えて布団で寝るように」という意味で「きどごろね、してんな」と言われてしまいます。

しかし、最近は、布団に入る時、寝間着にならず、普段着のままで寝る人も多いとか。スウェットで寝る人もおります。下着姿のままで寝る人も・・・。

●きみわり・きびわり・・・例題です。「あそごのうち、きみわり（きびわり）ずな」。これは「あの家、不気味だな」という意味です。

「きみわり・きびわり」は、「気持ち悪い」がなまって、というより、「気持ち」が簡略化して「きみ・きび」となり、「悪い」が簡略化して「わり」となり、「きみわり・きびわり」と言うようになったのではないかと、思います。

ですから、「きみわり・きびわり」は「気持ち悪い」と訳すことができます。しかし、この「気持ち悪い」は、吐き気を催すような気持ち悪いではなく、「不気味」というニュアンスです。

例題では、ある家について長い間誰も住んでおらず廃墟のようになってしまったとか、あの家では良くないが続いているという噂が立ったりすることで、「きみわり（きびわり）ずな」と言われたという例です。

「あいつ、おがしなごどばかりして、きみわり（きびわり）やづだずな～」は「あいつは変なことばかりして、気持ち悪いやつだな」というように、人に対しても言います。

異常気象が続きますと、「きみわり・きびわり」と思っています。特にこの冬の豪雪は「きみわり・きびわり」です。この場合の「きみわり・きびわり」は、背景に将来への不安もあります。

同じことは地震にも当てはまります。東日本大震災以降、山形県置賜地方（米沢市入田沢）や福島県会津（米沢に近い会津北部）を震源とする地震が（2012年2月）現在も続いており、ドンという衝撃音や地鳴りと共に感じる揺れが発生しますと、私も「きみわり・きびわり」です。

●きもむ・・・これは「気を揉む」から「を」を抜いて、短い言い方にした言葉です。ですので、私などは全国どこでも使われている言葉とと思っていましたが、意外にそうではないようで、辞書にも記載ありません。

約束した時間になっても相手の人が来ません。時間にうるさい人・厳しい人ですと、イライラしたり、ソワソワしたり、「なにしたんだべ（どうしたんだろう）」と相手の人を心配したり、「なにやってんだべ（なにをしているのだろう）」と相手の人に対してむかついたりします。これらの様子の総称が「きもむ」です。

できるはずのモノが、いつまで経ってもできないと、「いつになったらでぎんなだべ（いつになったらできるのだろう）」と「きもむ」ことになります。

講演会で講師の人が予定時刻を過ぎても話し続けたりしますと、「いつまでしゃべってんだ」と「きもむ」ことになります。

ほかの人の話は聞かず、自分だけ長々と話す人がいますと、周りの人は「こいず、ひとりでしゃべってんぞ（この人、ひとりでだけ話しているよ）」と「きもむ」ことになります。

●きやます・・・例題です。「あいつよ、今回さっちゃんもんで、きやましてんなよ」。これは「あの人、（これまで出来なかったことを）今回出来たので、いい気になっているよ」という意味です。ただし、「きやます」には、ただ「いい気になっている」というだけでなく、「鼻が高くなっている」つまり「天狗になっている」とか「大きな態度、威張るような態度になっている」という意味合いまで含まれるのです。「調子に乗っている」という意味合いもあります。

いずれにしても、「きやます」人は、謙虚な人とは正反対ですので、大抵は嫌われます。

●ぎょうずい（行水）・・・「行水」は全国で使われている言葉です。元々は神事や仏事での（宗教上の）言葉です。また、各家庭に浴室が無かった時代、銭湯へ行かずに、家庭で身体を洗うために「行水」をした・・・という説明もあります。

しかし、米沢では、そして私が子どもの頃は、「行水」とは夏にするものです。

当時の我が家では、裏庭に木製のタライを出し、そこへ水を入れます。子どもの私は、そこに

入り、汗を洗い流し、涼をとります。お風呂のように、肩までドップリ入るわけではありませんが、気持ち良かったです。

ただ、「行水」は、我が家だけだったかもしれません。（借家だった当時の）我が家の裏庭から見えるのは、畑と墓地だけです。だから、行水の様子は、誰にも（ほかに人から）見られませんでした。

その「行水」ですが、1960年代後半には、しなくなりました。

●きんな・・・例題です。「きんな、なにしたんよ」。これは「昨日（きのう）、なにをしていましたか？」という意味です。

「きんな」は「昨日（きのう・さくじつ）」という意味です。「きんな」という人は少なくなってきたように感じますが、使う人は、まだおられます。

●きんに・きんにえ・きんにごど・・・例題です。カボチャを包丁で切ろうとしていますが、なかなか切れません。そんな時に言うセリフは「こいづ、なかなかきんに」「こいづ、なかなかきんにえ」「こいづ、なかなかきんにごど」。これは「これ、なかなか切れない」です。

「きんに」「きんにえ」「きんにごど」は「切れない」という意味です。

「このほいじょ、きんに」「このほいじょ、きんにえ」「このほいじょ、きんにごど」は「この包丁、切れない」という意味です。

「このほいじょ、きんにぐなった」「このほいじょ、きんにえぐなった」は「この包丁、切れなくなった」という意味です。

●ぎんぼ・・・普段は運動などまったくしない人が、目一杯に身体を動かしますと、足がつったり、筋肉痛で足を曲げられない状態になることがあります。足が突っ張った状態になります。この状態を「ぎんぼ」と言います。

●くうだい・・・例題です。子ども（幼児）のセリフです。「おがし、くうだい」。これは「お菓子、食べたい」という意味です。

「くうだい」は「食べたい」という意味です。

「くうだい」は「くいだい」から幼児言葉としてさらになまった言い方です。おばあちゃんが小さなお子さんに向かって「こいづ、くうだいが」（これ、食べたいか？）と言っている光景をよく見ます。

●くされ！・・・失敗した時、仕事がうまくいかない時、バカにされた時などに口走ってしまう言葉が「くされ！」で、「ちきしょう！」「バカ野郎」というような意味合いです。

例題です。パソコンで文章を作成しています。時間がないのでチョー急ぎで作っています。キーボードのミスタッチで誤った言葉が出てしまいます。こんな時に口走るのが「くされ！」。これは自分自身に対する「くされ！」です。

例題です。キーボードのミスタッチを脇で見ていた上司でもない人から「なにをやっているの！」と言われ、むかついて「くされ！」。これは相手に対しての「くされ！」です。

例題です。「仕事がうまくいかない」という意味で「くされ！」という場合もあります。

例題です。「あいつは、くされだずな〜」。これは「あいつは評価できない人（ダメなヤツ）だな〜」という意味です。

●くじゃます・・・この言葉を標準語に訳そうとしたら、意外にも頭を抱えてしまいました。それだけ適当な標準語が見当たらなかったのです。しいて言いますと、「悪く言う」「文句を言う」「からかう」「バカにする」というニュアンスでしょうか。

例えば「A、またBんどこ、くじゃましたじゃ」（Aは、またBのことを、悪く言っていたよ）、  
「Cは、Dに、よぐくじゃまされっけんど、がってしねずな」（Cは、Dから、常に悪く言われているのに、平気だよ）などと言います。

ところで、この「くじゃます」ですが、ほかではまったく紹介されておりません。インターネット検索をかけても出てきません。米沢の方言辞典にもありません。ということは、超ローカルな言葉なのでしょうか。

●ください・くだえ・・・例題です。「あっあえ、こいず、ください」。これは、お店に入った客が言うセリフです。「ごめんください。買いにきました。これ（この商品を買って）ください」という意味です。

「ください・くだえ」は「ください」という意味です。だいたい、お店でほしい商品があった時に、「これ、ください」という意味で使います。

ということは、スーパーでは「ください・くだえ」という場面がなかなかありません。「ください・くだえ」は、お客さんとお店の人がコミュニケーションできるから存在する言葉です。

●くたま・・・例題です。「こがんどごさ、おまえいと、くたまだず」。これは「こんなところに（ここに）、おまえが居ると、邪魔だ」という意味です。

「くたま」とは「邪魔」という意味です。

家でゴロゴロしていると、くたまにされますので・・・。

「くたま」は、人に対しても、モノに対しても言います。

●くっさ・・・例題です。「きょうのさげのみさ、社長くんが」「くっさ」。これは「きょうの飲み会に、社長来るのか？」「来るよ」「来るそうだ（よ）」という意味です。

「くっさ」は「来るよ」「来ます」「来るそうだ」「来るようだ」という意味です。

●くっちさ・・・例題です。「きょうのさげのみさ、社長くんが」「くっちさ」。これは「きょうの飲み会に、社長来るのか？」「来るよ」「来るそうだ（よ）」という意味です。

「くっちさ」は「来るよ」「来ます」「来るそうだ」「来るようだ」という意味です。

●くっちやばす・・・ご飯を食べ終わりました。ところが、ご飯茶碗にたくさんのご飯粒が残っています。ご飯粒は飯台の上にもいっぱいあります。おかずも同じように残っていたり、飯台に散らかっています。このように、食い散らかした状態を「くっちやばす」と言います。

「だれだ、くっちゃばしたな！」「くっちゃばさねで、きれいにくえ！」という子どもに対するセリフは、よく聞かれたものです。

●くべる・・・芋煮会です。まずは火をおこします。火がおきたら、火が消えないように「ばいだ、くべろ」。これは「木（の板）を燃やせ」という意味です。

「くべる」とは「燃やす」という意味です。ただし、「マッチをくべる」とは言いません。「くべる」とは、すでに燃えている状態において、火が消えないように、木材・薪などを補給することです。

火が消えないように紙を補給するとしますと、「紙をくべる」となりますが、私は「紙をくべる」とは言わなかったと思います。「くべる」のは、木材だったり、杉の葉っぱだったりします。

●くろもも・・・トランプの「スペード：♠」のことです。

●くんな・・・2つの意味が考えられます。

ひとつは「来るな」「来ないでください」という意味です。例えば「きょうのさげのみは、おなごだけなんで、おどごしゅは、くんなよ」は「きょうの飲み会は、女性だけなので、男性は来ないで」という意味です。

もうひとつは「来るのか」「来るのですか」という意味の「くんなが」の略した言い方です。「が」を略して「くんな？」と言います。

●くんなが・・・例題です。「きょうのさげのみさ、社長くんなが」「くっさ」。これは「きょうの飲み会に、社長来るのか？」「来るよ」という意味です。

「くんなが」は「来るのか」「来るのですか」という意味です。

「くんなが」「くっさ」のやり取りには、意味がある場合が多いです。例題では「くっさ」という答えに「くんなが」と思います。この「くんなが」は、来てほしくない人が来るとわかった時の「来るのか・・・」という意味です。

逆に「きょうのさげのみさ、社長くんなが」「こね」「こねなが」は「きょうの飲み会に、社長来るのか？」「来ないよ」「来ないのですね」という意味です。「こねなが」には「来ないので良かった」という思いがあります。

もうひとつ例題です。「きょうのさげのみさ、Aさんくんなが」「くっさ」「くんなが」。これはAさんが来ることがわかり、「良かった」という思いを込めての「来るのですか」「来るのですね」という意味の「くんなが」です。

●くんべ・・・例題です。「きょうのさげのみさ、社長くんなが」「くんべ」。これは「きょうの飲み会に、社長来るのか？」「来るだろう」という意味です。

「くんべ」は「来るだろう」「来るでしょう」「来ると思います」という意味です。

●け・・・これは「くえ」をさらに簡略化した言い方で、「食べろ」「食べなさい」「食べてください」という意味です。

「け」とは乱暴な言い方のように聞こえますが、家族への「食べろ」から客に対しての「食べてください」まで幅広く使われます。

「けえず」も同様に「食べろ」「食べなさい」「食べてください」という意味です。

●けっか・・・例題です。「あめだま、けっか」。これは「飴玉、あげるか」という意味です。

「けっか」とは「あげるか」という意味で、言い換えますと「ほしいか」「もらいたいか」という意味です。「あめだま、けっか」と言われた子どもが「ウン」と言いますと、それは「ほしい」「ください」という意味になります。

●けっから・・・例題です。「お前さ、この大根、けっから」。これは「おまえに、この大根をあげるから」という意味です。

「けっから」とは「あげるから」「くれるから」という意味です。「けっから」は、単純に「あげる」という意味の「ける」と違って、理由があって「あげる」というニュアンスです。

例えば、「おまえさ、このゲーム、けっから」とは、自分はこのゲームが要らなくなったので「あげる」「くれる」となった感じです。例題の「お前さ、この大根、けっから」とは「自分が栽培した大根なので食べてよ」という意味合いを含むことがあります。

「けっから」には「あげるから感謝して」とか「あげるから大切に使って」とか「あげるからみんなで食べて」などのようなニュアンスを含む場合があります。

例えば、親が子どもに「小遣い、けっから」ということがあります。これは「小遣いをあげる」ので、「大切につかいなさい」という意味合いです。

「そがえにほしいごんじゃ、けっから」という例もあります。これは「そんなにほしいのであれば、あげるから」という意味です。

「けっから」は、同年代・同僚・仲間・後輩・年下・部下・子どもなどに対して言う言葉で、年上・上司・先輩などには言いません。

「けっからな」は「けっから」を強調する言い方です。

●けつつ・・・「尻」のことです。例題です。「けつつ、かゆいぞ～」は「お尻、かゆいよ」という意味です。

「けつつ」は「けつ」がなまった言葉かと思います。

大きな「けつつ」、あるいは「けつつ」を強調する意味で「でんげつつ」（「げ」は半濁音）という言葉もあります。

「どんけつ」という言葉があります。これは、かけっこ（はしりっくら）などでの「最下位」を意味する言葉で「どんじり」という言葉もあります。これは「尻」には「後ろ」という意味合いがあるからであり、食べたものが最後に排泄される場所が「お尻」ということから来ている言葉かと思われます。「どんけつ」や「どんじり」には「恥ずかしい」や「最下位をバカにしている」という意味合いもあります。

「けつつ」は普通に使っていた言葉です。ですから、調べた結果、辞書に載っていないことがわかり、少々ビックリしました。

●けっぺ・・・例題です。「そいず、おれさ、けっぺ」。これは「それ、私に、くれるのだろう」という意味です。

「けっぺ」とは、実際には「けろ」（くれ）と同じ意味ですが、「けろ」という直接的な言い方を避けた言葉です。ですから、標準語では「くれるのだろう」「くれるんでしょう」という言い方になります。ただ、相手からしますと「けっぺ」は「けろ」と同じ意味に聞こえる場合が多いことが考えられ、突然あるいは一方的に「けっぺ」と言われますと、気分を悪くされる可能性が高いです。

もうひとつ例題です。「明日、休みだけんど、仕事してけっぺ」。これは「明日、（会社は）休みですが、仕事してくれるだろ」という意味です。これも直接「仕事してけろ」とは言わない間接的言い方です。ただ、上司から「仕事してけっぺ」と言われますと、現実的には「やんだ」（イヤです）とはなかなか言えませんので、事実上は「仕事してけろ」と同じ意味です。

知り合いや友人などから「明日、手伝ってけっぺ」と言われても、なかなか断れないのが日本人です。

そう考えますと、「けっぺ」は、方言ですが、日本特有の奥ゆかしくもあり、曖昧でもある言葉です。

●げっぺ・げっぺえ（い）・・・かけっこをします。一番最後にゴールしますと「げっぺ」と言われます。

同じ意味で「どっけ・どっけえ（い）」という言葉があります。「どっけ・どっけえ（い）」が冗談半分・遊び半分的ニュアンスがあり、「どっけえ賞！」と言うセリフもあります。一方、げっぺ・げっぺえ（い）は、あっさりとした「ビリ」と言うニュアンスです。

また、米沢では「げっぺ・げっぺえ（い）」より「どっけ・どっけえ（い）」と言う人が多いかもしれません。

このあたりのことになると、私もハッキリしたことは申せません。

●けっぽる・・・「蹴る」という意味です。「（サッカー）ボールをけっぽる」「そのボール、けっぽれ！」（そのボール、蹴りなさい（蹴れ）！）という言い方をします。

寝ている時に、足でほかの人の体を押したり、布団を押しつけてしまうことも「けっぽる」と言います。これは「ふんごぐる」に近い意味です。「おれんどご、けっぽんはず〜」という言い方をします。

ただ、「ふんごぐる」が「押しやる」「押しつける」という感じに対して、「けっぽる」はまさに「蹴る」です。だから、「ふんごぐられる」より「けっぽられる」方が刺激は強いかもしれません。だから、「布団をけっぽる」という言い方は、あまりしないと思います。

●けむてえ・・・おわかりと思いますが、「けむたい」がなまった言葉です。「けむて」と短く言う場合もあります。

「けむてえ」場面は、秋の芋煮会で体験します。薪で火をおこします。煙が出ます。煙は風下に流れますので、風上に移動します。ところが、移動した方に煙が追っかけるように流れることがあります。まさに「なんでこうなるの？」です。

●ける・・・例題です。「おまえさ、このゲーム、ける」。これは「おまえに、このゲームをあげる」という意味です。

「ける」とは「あげる」「くれる」「与える」という意味です。昔は「この盆栽、ける」「この菜っ葉、ける」というセリフをよく聞いたものです。

「ける」は年上・上司・先輩などには言いません。親しい人同士、そして後輩・年下・部下・子どもなどに対して言う言葉です。

●けろ・・・例題です。子ども同士の会話です。「そがなで、もうあそばねべ。おれさ、そいずけろ」。これは「そんなもので、もう遊ばないでしょう。俺に、それをくれ」という意味です。

「けろ」は、「くれ」「頂戴」「ください」という意味です。だいたいは子ども同士あるいは子どもが大人に言う場合が多いです。大人同士で「けろ」とは、あまり言わないと思いますが・・・。ただ、明らかに不要になったものであることがわかった場合には「お前、そいずいらねべ。おれさ、けろ」と言うことはあります。

●けろ・・・例題です。朝です。きょうの天気はどうなっているでしょう。そこで「そど、みてけろ」。これは「外を見てください」という意味です。

この「けろ」は「頼む」「依頼する」時に使う言葉です。

「してけろ」は「してください」、「おもちゃ、買ってけろ」とは「おもちゃ、買ってください」という意味です。

「けろ」は「くれ」に近いニュアンスです。これまで挙げた例題も「みてくれ」「してくれ」「買ってくれ」と訳すことができます。

●けんぞ・・・「あげるぞ」「くれるぞ」という意味です。「けるぞ」と言う人もいますが、私などは「けんぞ」という言い方をしてきました。

「けんぞ」は「けっから」をさらに強調する言い方とも考えられますが、それよりも、相手がほしいと思っているかに関係なく、「あげるぞ」「くれるぞ」と言うニュアンスで、その裏には「だから、もらえ」「もらいなさい」という意味があります。

逆に、相手がとてもほしかっている場合も「けんぞ」と言います。この場合は、「そんなにほしいのか。仕方ないな～」というニュアンスでの「けんぞ」（あげるぞ）です。

●けんにかが・・・例題です。「その植木、おれさけんにかが」。これは「その盆栽、私にくれませんか」という意味です。どうやら、その盆栽が気に入って、ほしくなったようです。

「けんにかが」は「くれませんか」「くださいませんか」というような意味です。「けろ」がストレートに「くれ」「頂戴」という意味に対して、「へんにかが」は奥ゆかしい言い方で、「くれませんか」と相手の気持ちを尋ねる言い方で「ほしい」という意思を表しています。

子どもが「けんにかが」という場合は、親の顔色をうかがっている時です。

●けんになが・・・「あげないのですか」「あげないのか」「くれないのですか」「くれないのか」



という意味です。

例題です。おしゃべり会です。おしゃべり会ではお菓子や飲み物が準備されました。おしゃべり会が終わりました。たくさんのお菓子が余ってしまいました。そんな時に思うのは「お菓子、けんになが」です。中には「けんにながず〜」口に出す人がいるかもしれませんね。

子どもたちが遊んでいます。ひとりのお子さんが、持ってきたお菓子を食べ始めます。周りのお子さん、食べたそうにしています。こんな時も「けんになが」です。お菓子を食べているお子さんに「あげないのかな〜」と言うわけです。

「あれっぱりしかけんになが」は「あれだけしかくれないのか」という意味です。

●・・・こ（い）・・・米沢弁では、独特の言い方として、元々あった言葉に「こ（い）」を付けている言葉があります。いくつか例をご紹介します。

『かるこい』は「かるい（軽い）」に「こ（い）」を入れた言葉です。

『せまこい』は「せまい（狭い）」に「こ（い）」を入れた言葉です。

『ちちゃこい』は「ちっちゃい」に「こ（い）」を入れ「っ」を省いた言葉です。「ちっちゃい」は「小さい」という意味で、「ちちゃこい」も同様に「小さい」という意味です。

『ちよろこい』は「ちよろちよろ」から「ちよろ」を省き、「こ（い）」を入れた言葉です。

『めんごこい』は「めんごい」に「こ（い）」を入れた言葉です。「めんごい」自体も方言で「かわいい」という意味です。『めんごこい』も同様に「かわいい」です。『めごこい』という人もいます。

『まるこい』は「まるい（丸い）」に「こ（い）」を入れた言葉です。

「こ（い）」を入れることで、親しみ感、かわいらしさが増す感じがします。

「ご（い）」を入れた言葉もあります。『あまごい』は「あまい（甘い）」に「ご（い）」を入れた言葉です。

●こいず・・・「ぬすくらえしたな、こいずだ」。この意味、おわかりになりますか。全国の皆さんはわからないでしょう。ひよっとすると、地元の方でも、わからなかったりして。相当コアな米沢弁です。

まず、「ぬすくらえ」（ぬすくらい）から説明します。これは、つまみ食いのことを言います。「こいず」の例題を考えた際、私の頭に浮かんだのが「ぬすくらえ」です。それで、この場合の「こいず」とは「この人」と言う意味ですが、感情的には「この野郎」という感じになります。つまり、「ぬすくらえしたな、こいずだ」とは「つまみ食いをしたのは、この野郎だ」ということなのです。

ほかに「こいず」には「これ」という意味もあります。例えば、「こいずあいいあんばいだな」と言います。この意味は「これは具合（調子）が良い」です。

●こうすんぞ・・・「こう（このように）するぞ」「こう（このように）やるよ」という意味です。つまり、「自分が考えた通り」に「するよ」「やるよ」という意味です。さらに、「（自分が考えたことが）わかったか。（その考えた通りに）しなさい」というニュアンスで、提案というより、指示・命令の意味合いが強いです。

事前の打ち合わせでの、「こうすんぞ」も、同じく提案というより、指示・命令の意味合いが強くなってしまいます。ですから、みんなで決めようという時に「こうすんぞ」という発言は慎むべきと思います。

●こうすんべ・・・「このようにしよう（よ）」「このようにしましょう（よ）」という意味です。これは、「自分が考えた通り」に「しようよ」と「提案する」「尋ねる」「促す」という意味合いで、指示・命令とは違うニュアンスです。

●こがんどご（こがなごど、こげなごど）・・・例題です。「こがんどごして、良いと思うが」。これは「こんなことして、良いと思うのか」という意味です。この場合の「こがんどご」（こがなごど、こげなごど）とは「こんなこと」という意味です。行為を指しています。

●こがな（こげな）・・・例題です。「こがな（こげな）宿題、よく出さずな〜」。これは「こんな宿題を、よく出しますね」という意味です。

「こがな（こげな）」とは「こんな」「このような」「こういう」という意味です。

もうひとつ例題です。「こがな（こげな）どごさ、あったな?」。これは「(探していたモノが)こんなところにあったのですか?」という意味です。

さらにもうひとつ例題です。「こがな（こげな）人には、なんね」。これは「(将来私は)このような人には、なりません」という意味です。

このように「こがな（こげな）」には、モノ・場所・人などを指して使う言葉ですが、「評価をしない場合」あるいは「意外である場合」「驚きである場合」などに使う言葉です。

ですから、「こがな（こげな）人になりたい」とは言いません。

●こがんどご（こがなごど、こげなごど）・・・例題です。「こがんどごさ、おまえいっと、くたまだず」。これは「こんなところ（ここ）に、おまえが居ると、邪魔だ」という意味です。「こがんどご」（こがなごど、こげなごど）とは、こんなところ（ここ）という意味です。つまり、場所を指します。この場合、「こがんどご」（こがなごど、こげなごど）のあとに「さ」や「に」を付けると、場所を指していることがハッキリします。

●こさ・・・例題です。「こさ、こいず」。これは「ここに（へ）来なさい（来い）」という意味です。

「こさ」とは「ここに（へ）」という意味です。

「こさ、こいず」から簡略化して「こさ、こいず」になったものと考えます。

●こざく・・・深く積もっている雪の中を歩くこと、言い換えますと、雪をかき分けて歩くことを言います。「こざく」だけでもこの意味になりますが、実際には単独で「こざく」とは言わず、「ほだこざき、してきた」という言い方をします。「ほだ」は、雪がたくさん積もっていて、人間が入ると、腰までもぬかってしまう状態です。（詳しくは、「ほだ」の項をご覧ください）

●ござった・・・例題です。「よく、ござったごど」。これは「よく、来てくださいました」という意味です。「米沢さ、よくござったなっし」は「米沢によく来てくださいました」という意味です。

「ござった」とは「来てくださった」「来られた」「お越しになった」という意味で、「来た」の尊敬語です。

「ござった」は「ござる」の過去形の言い方です。その「ござる」は、辞書に『『いる』の意の尊敬語、『ある』の意の尊敬語』と記載されていますので、「ござった」は、特に方言とは言えないと考えることもできます。

しかし、米沢では「ござった」というと、なんとなく米沢の言葉のように聞こえてしまいます。米沢の人のもてなしの心から生まれた言い方だからです。すなわち、「ござった」からこそ感謝の意を示すことができるわけで、「ござる」とは次元の違う言葉です。

いかに「ござった」が米沢の言葉であるか、その証拠があります。「ござった」をより一層米沢らしく丁寧にした言い方があるからです。それが例題に示した「ござったごど」「ござったなっし」です。

●ござっておごやえ・・・例題です。「うまいものがいっぱいある米沢に、ござっておごやえ」。これは「美味しいものがたくさんあり米沢に、お越しになってください」という意味です。

「ござっておごやえ」は「お越しになってください」という意味です。「来てください」という意味の「ごんざえ（ごんざい）」の丁寧な言い方です。

もてなしの心あふれる言葉が「ござっておごやえ」です。大切にしたい言葉です。

●こしゃう・・・「作る」という意味です。料理を作る時も「こしゃう」と言いますし、工作で割り箸鉄砲を作る時も、日曜大工でイスを作る時も「こしゃう」と言います。

例題です。キャンプでは「みんなでカレー、こしゃうぞ」（みんなでカレーを作るぞく作りましょう）。子どもがおかあさんへ自慢そうに「紙飛行機、こしゃったぞ！」（紙飛行機を作ることができたよ！）。おとうさんは子どもに「お前の腰掛け、こしゃってけっから」（お前のイスを作ったあけるから）。

●ごしゃぐ・・・「怒る」という意味です。「叱る」とはニュアンスが違います。「あいず、ごしゃいたじさ」とは「あの野郎（あの人）、怒ってだったよ」となります。例題で出ました「あいず」は「こいず」と同じで「あの野郎」という感じです。「ごしゃぐ」は次のように展開します。

●ごしゃがれる・・・「怒られる」という意味です。受け身側です。

●ごしゃがっちゃ～・・・子どもが泣きながら「ごしゃがっちゃ～」（怒られた～）という感じです。

●ごしゃいだ・・・「怒った」という意味です。実際に「怒った」のであります。

●ごしゃげる・・・「腹が立つ、頭にくる」という意味です。これって、考えてみますと、なかなか奥深い表現です。これは、実際には「怒っていない」のです。でも、「腹が立つ」のです。ということは、「実際には怒ることができない。でも腹が立つ」というジレンマ・苛立ちをにじませる表現なのです。

●こちょぐったい・・・例題です。「足の裏、さわられっと、こちょぐったいずな」。これは「足の裏に触れられると、くすぐったいよね」という意味です。

「こちょぐったい」は「くすぐったい」という意味です。

●こつけな・・・例題です。部屋が散らかっています。それを見たおとうさんが子どもに言うセリフは「だれだ、こつけなごどしたな!」。意味は「誰だ、こんなことをしたのは」。

「こつけな」は「こんなこと」という意味です。この「こんなこと」とは「良くない状態」「困った状態」のことを指します。

例題ですと、「だれだ、部屋を散らかしたのは」とも言いますが、「部屋が散らかっている状態」は「良くない状態」「困った状態」ですので、「叱る」あるいは「注意する」意味で、「だれだ、こつけなごどしたな!」という言い方をしたわけです。

もうひとつ例題です。「掃除しろず」「こつけな(ごど)、してらんに」。これは「掃除しなさい」「こんなこと、してられません」という意味です。

この場合の「こつけな」は「こんなこと」という意味です。しかし、先に紹介した意味とは違います。この場合の「こんなこと」は「イヤなこと」「意に反すること」を指します。

例題ですと、「掃除することがイヤだから」という場合や、「他人が散らかしたのに、なぜ自分が掃除しなければならないのか」という思いから、「こつけなごど、してらんに」と言ったわけです。

「イヤなこと」「意に反すること」では「そつけな」とも言います。

●こっちゃ・・・例題です。「こっちゃ、こい」。これは「ここに来なさい(来い)」という意味です。「こっちゃ」は「ここへ(に)」「こっちへ(に)」「こちらへ(に)」という意味です。

「こっちゃ、きて、あそべ」は「こっちに来て、遊びなさい」という意味です。

「こっちゃ、きて、あそばねが」は「こちらに来て、遊ばないですか」という意味から「こちらに来て、遊ぼうよ」さらに「私たちといっしょに(私たちの仲間に入って)遊びませんか」という意味合いが含まれる場合もあります。

●こっちょがす・・・例題です。「誰だ、いつまでもないったな。わらわせでけっかな。こっちょがすぞ〜」。これは「誰だ、いつまでも泣いているのは。笑わせよう・・・。くすぐんぞ」という意味です。

「こっちょがす」は「くすぐる」という意味です。

●「ごつつお」・・・2つの意味があります。

ひとつは、料理そのものに対する言葉で「ご馳走」という意味です。普段は食べる機会がない美味しい料理が並んでいますと、それが「ご馳走」になります。

もうひとつは、食べ終わった時のセリフです。「ごちそうさまでした」という意味ですが、「ごつつお」は、そんな丁寧な言い方ではありません。親しい人に対して、食べ終わったことを伝える簡略的な言い方です。本当に美味しかったことを伝える場合、あるいは上司や先輩などから、

おごられた時に「ごっつお」と言ったら、失礼にあたります。

●こつぱし・・・例題です。「こつぱし、もらってもな〜」。これは「これだけ、いただいても・・・」という意味です。

「こつぱし」とは、量が少ないことに対する「これだけ」という思いを表現した言葉です。「これっぽっち」と同じような意味です。

例題では、あるものをいただいたのですが、量が少ないため、逆に困った思いを表現したセリフです。例えば、「こいず、おぼごさ、かせろな（これ、あなたの子どもに食べさせてね）」とお菓子をいただいたものの、子どもは3人なのに、もらったお菓子は1個で、困ってしまう場合です。

おやつの少なさに嘆くセリフは、子どもは「これっぽっち！」とか「こつぱししか、ねえなが〜」と言います。

●こないだ・・・例題です。「こないだ（は）、おしょうしな」。これは出会った時の挨拶でよく聞かれるセリフです。「先日は、ありがとうございます」という意味です。

「こないだ」は「先日」という意味です。「この前は」がなまって「こないだ」になったものと思われます。

「こないだ」は「先日」という意味ですが、その範囲は曖昧です。だいたい「数日前」でしょうか。私の感覚では、1日前（昨日）は該当しないです。2日前（一昨日）になりますと、範囲に入る可能性はあります。1週間前でも範囲に入るかな、思います。1ヶ月前ですと、会う機会が多い人同士では範囲外になりそうですが、会う機会が少ない人同士では「こないだ」でも通じるかもしれません。

●こね・・・例題です。「きょうのさげのみさ、社長くんが」「こね」。これは「きょうの飲み会に、社長来るのか？」「来ない」という意味です。

「こね」は「来ない」「来ないです」「来ません」という意味です。

●こね（え）だ・・・例題です。「こね（え）だ、ごめんどうになって、おしょうしな」。これは「この間は、お世話していただき、ありがとうございます」という意味です。よく、おばあちゃんが言うセリフです。

「こね（え）だ」は「この間」がなまった言い方で「先日」という意味です。

「こね（え）だ」は「こないだ」よりなまった言い方です。

●こねごで・・・例題です。「きょうのさげのみさ、社長くんが」「こねごで」。これは「きょうの飲み会に、社長来るのか？」「来ないです」という意味ですが、この「こねごで」には「社長は気遣うので当然来ないです」とか「そんな飲み会に社長は来ないですよ」という意味合いが背景にあるのです。つまり「こねごで」は「当然来ないです」という意味です。

●こねじさ・・・例題です。「きょうのさげのみさ、社長くんが」「こねじさ」。これは「きょう

の飲み会に、社長来るのか？」「来ないそうだ」という意味です。

「こねじさ」は「来ないようだ」「来ないそうだ」という意味です。

●こねず・・・例題です。「きょうのさげのみさ、Aさんくんが」「こねず」。これは「きょうの飲み会に、Aさん来るのか？」「来ないよ」という意味です。

「こねず」は「来ない」「来ないです」「来ません」という意味です。これは、本当はAさんに来てほしいという思いや期待があつての「きょうのさげのみさ、Aさんくんが」に対して、冷たく「こねず」と答えたという場面です。

●こねなが・・・例題です。「きょうのさげのみさ、社長くんが」「こねじさ」「こねなが」。これは「きょうの飲み会に、社長来るのか？」「来ないそうだ」「来ないのか」という意味です。

「こねなが」は「来ないのか」「来ないのですか」「来ないのですね」という意味です。

例題では「こねじさ」に対して、来ないことを確認する・聞き返すために「こねなが」と言ったという場面です。

●こねべ・・・例題です。「きょうのさげのみさ、社長くんが」「こねべ」。これは「きょうの飲み会に、社長来るのか？」に対する「来ないでしょう」あるいは「来ないんじゃないの」という意味です。

「こねべ」は「来ないでしょう」「来ないんじゃないの」という意味です。例題の場合「当然来ないでしょう」「当然来ないんじゃないの」という意味合いがあります。ただし、「こねべ」は推測であり、実際には社長が来る場合があります。

●このげ・・・意味は「眉毛（まゆげ）」です。調べますと、少なくとも、山形県だけでなく、岩手県・宮城県・秋田県など東北各地にみられる方言です。

●ごはんだし・・・「食事のしたくをする」という意味です。「米を炊く」から「おかずを作る」「料理を作る」「調理する」など、食事ができるようにするための行為・作業・仕事を差す言葉です。「ごはんだし、すっか」「ごはんだし、すんぞ～」は、いずれでも「食事（例えば、夕飯）のしたくを始めよう」という意味です。

逆に言いますと、米を炊いただけでは「ごはんだし」にはなりません。「ごはん」に「おかず」などがあって、食事ができることになるからです。

●これっぱり・・・例題です。おとうさんが子どもに小遣いをあげます。それで子どもが言うセリフは「これっぱり」。これは「これだけ」という意味です。この「これだけ」には「少ないよ」「もっとほしいよ」という意味が含まれています。

「これっぱり」とは「これだけ」という意味であり、意識しますと「少ない」という意味になります。

例題です。親戚のおじさんからショートケーキをいただきました。おじさんには「おしょうし」と言います。しかし、内心は「これっぱり、もらっても、しょねず」。おじさんがプレゼントした

ショートケーキは2個です。しかし、子どもは5人です。そこで内心は「これだけ、もらっても、どうしようもない（困ってしまう）（もらった意味がない）」と思ったわけです。

「これっぱり」を「あれっぱり」ということもあります。

●こわい・・・「おそろしい」という意味の「こわい」ではありません。例題です。「はしってきたもんだがら、こわいよ～～」。これは「走ってきたので、疲れたよ～」という意味です。つまり、「こわい」とは「疲れた」とか「くたびれた」という意味です。

ただし、「疲れた」の意味でも、どちらかと言いますと、体力的・肉体的に「疲れた」時に「こわい」と言います。ですから、肉体労働で疲れた時には「こわい」と言いますが、会社の仕事・例えば事務職などで疲れても、「こわい」とはあまり言わないと思います。そういう意味では、「こわい」は、「疲れた」というより「くたびれた」という感じでしょうか。

●こわい・・・例題です。「このまんま、こわいよ」。これは「このご飯、かたいよ」という意味です。「こわい」とは、お米がよく炊けておらず、芯が残っていて、硬い状態のことを言います。モチ米でも、言います。なお、「こわい」はお米が硬いことに対して言う言葉であり、それ意外では言いませんでした。

●ごんざえ（ごんざい）・・・例題です。「おらんどごで、もぢつくがら、くいにごんざえ（ごんざい）」。これは「我が家で、餅つきするので、食べに来てください」という意味です。

「ごんざえ（ごんざい）」は「来てください」「いらしてください」「来てね」「おいでください」という意味です。

というわけで、「ごんざえ（ごんざい）」を観光や地域づくりのキーワードにしているケースがあります。例えば、長井市では2012年秋、インターネットに“長井市移住交流ポータルサイト『田舎暮らし ごんざい』”を開設しました。

このように、「ごんざえ（ごんざい）」は、米沢だけでなく、広く使われている言葉かと思われまます。

だいたい「ごんざい」と紹介していますが、私などはさらに訛って「ごんざえ」と言っていましたので、ここでは「ごんざえ（ごんざい）」と紹介します。

「おらえのうっちゃ、あそびさ、ごんざえ（ごんざい）」「おまつりに、ごんざえ（ごんざい）」などと言います。

●ごんぼ・・・「ごんぼ」とは野菜の「ごぼう」のことです。

この「ごんぼ」という言葉、米沢だけでなく全国各地で使われているようで、ある辞書では「“ごぼう”の転」と説明しています。ですから、このコーナーで取り上げるのは適当であるか、議論になるかもしれません。ところが、「ごんぼ」という言葉を知らない人も結構いるのではないかと感じてきましたので、私も子どもの頃から「ごんぼ」と言ってきたこともあり、取り上げることにしました。

私などは、「ごぼう」という言葉は上品というか都会的なニュアンスを感じたこともあり、昔から「ごんぼ」という言い方に親しみを感じていました。「きんぴらごぼう」を食べる時も「ごんぼ、

食うぞ」てな感じです。